

古學小傳

東泉園齋

七	一			
冊	號	架	函	屬
				類

清宮秀堅著

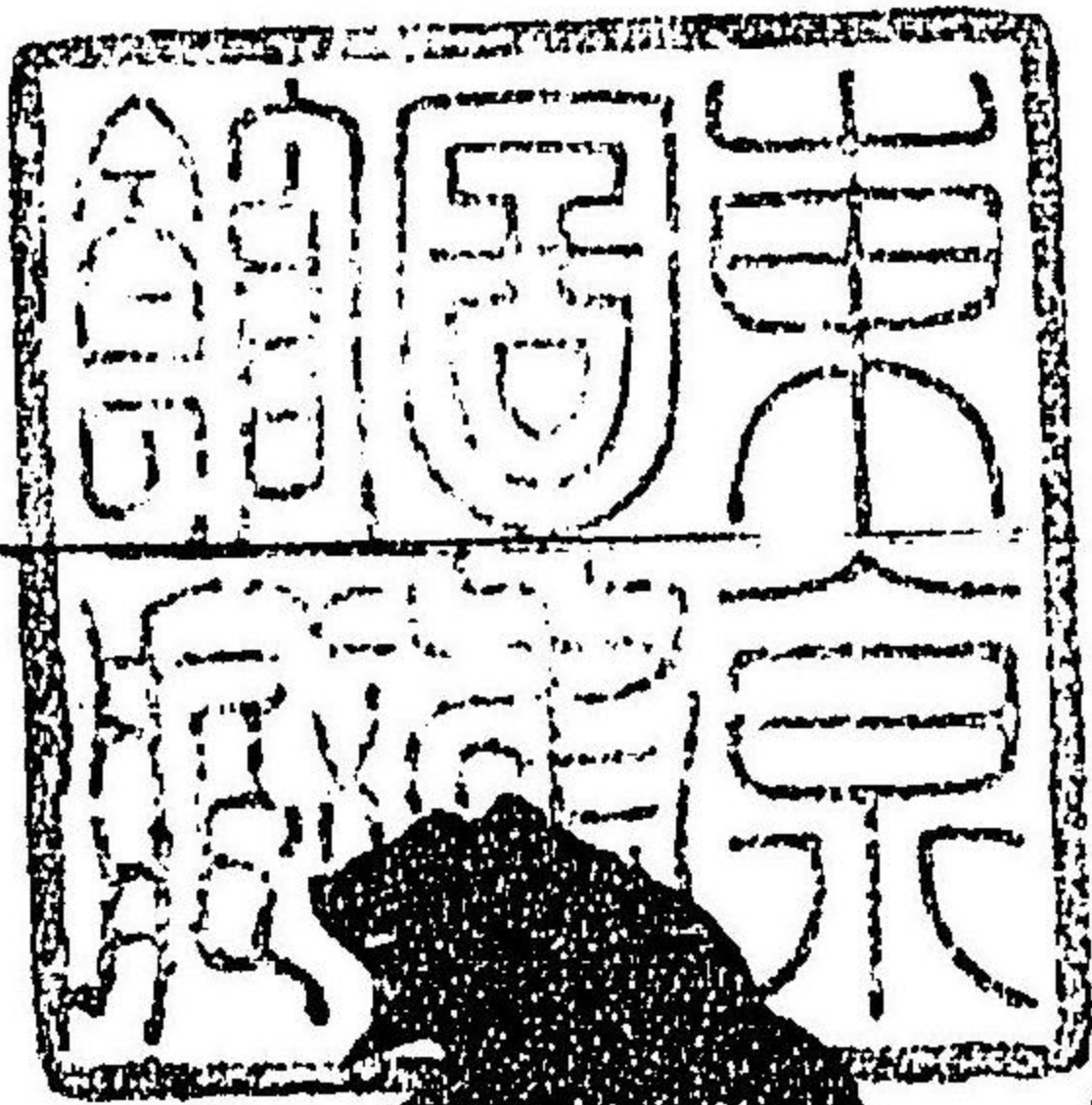
古學小傳

東京

玉山堂發兌



大正十一年三月廿五日 1392



古學小傳

清宮秀堅著

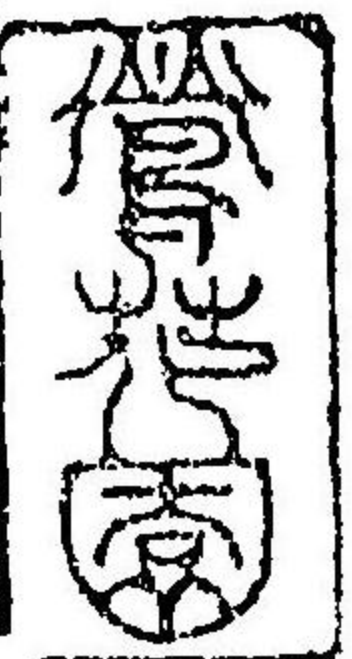
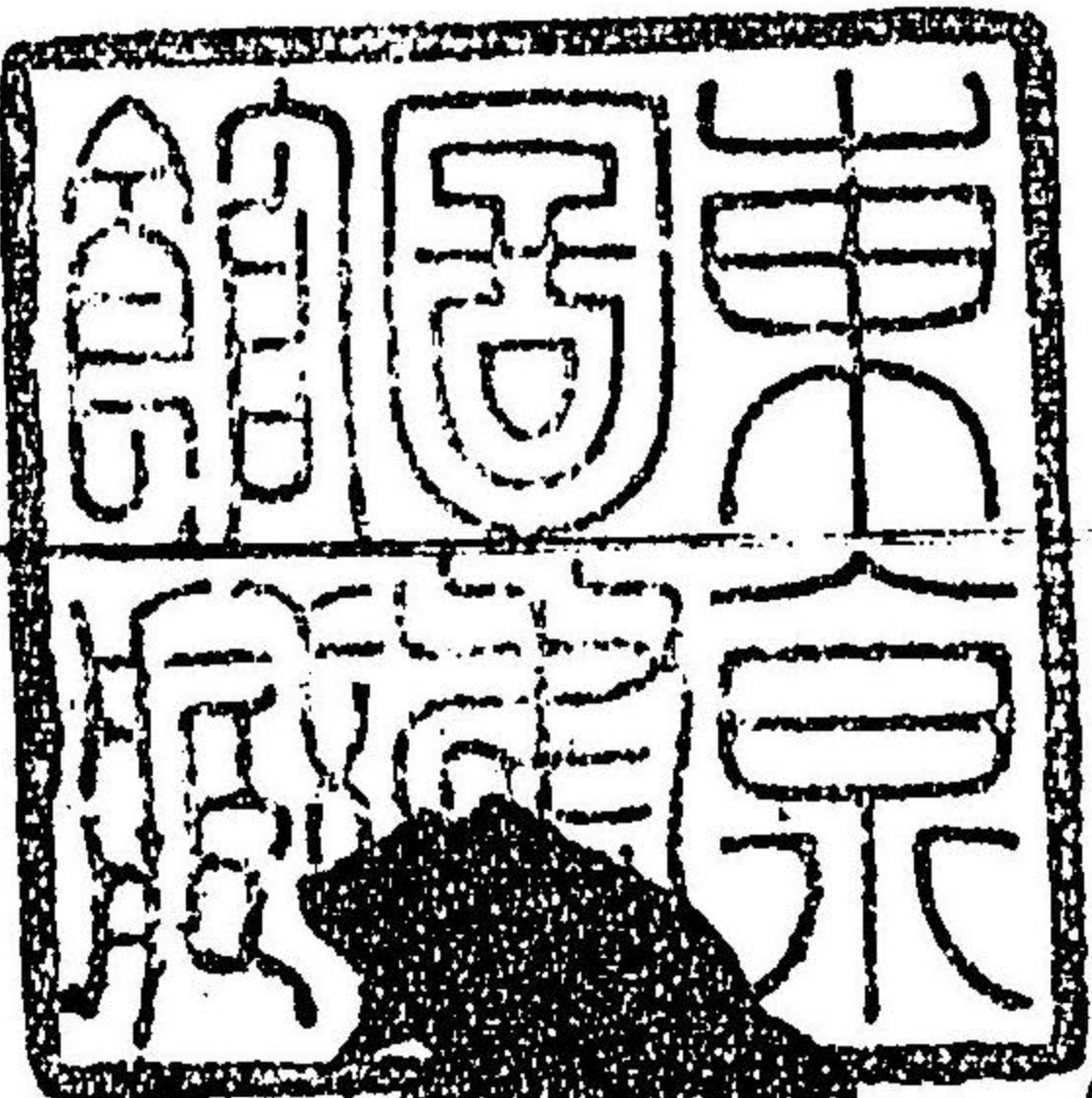
古學小傳

東京

玉山堂發兌



清宮十九年十一月四日出版 1392



古

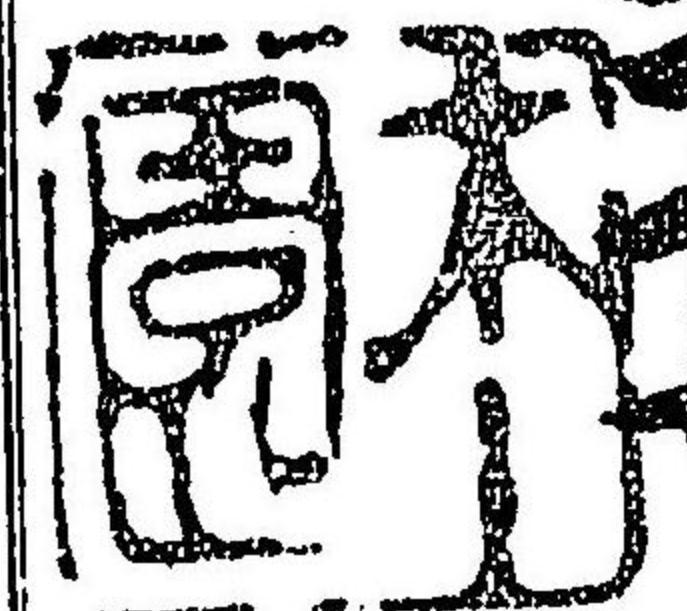
風

風古學子
時

明治十二年

六月

美智子



世の人のとつるいさまは。よろつ経わざ。なまくれのこちみ。
いとおほうれと。ものまなひ経道のいさをはうり。いとおほ
きなるハあらさりけり。さるハ。こと國のまなひ乃うへまて
ハうけても。今いふおきりまはあらて。たゝわらおほみくま
経。神乃み代よりの。みよくのふることまなひの。いともく
すくさへなる。おほきひろき道のまなひのいさをいふ
なり。あはれこのまなひの道ハ。中むらゝのころより。たちな
らゝふみならず人も。やうくまれみなりもてゆきて。近き
むらゝとなりてハ。とつくみ経こちさき道をのみ道とはい
ひおもひて。わらおほき廣きみちハ。みちとも志らす。道とい
もおもへらた。ありともへら経ハ。ありともおもへらた。い

とれほつちなくなりまして。ふみゝる人も。おほらうゝいならめり
しき。契沖あさり。荷田のまゝ。糸。賀茂のおきな。本居のうゝな
ど。つきくみとけき心をふりおこして。うの道ひらきせら
れしうは。ふとたひ世あきらけくなりて。いてとつあゝも
とのまらひなきハ。さらまもいはす。はるけきほとも志るゝ
のくひのいちゝるけれハ。今の君と臣とのわいゝめを志ら
ぬ。うひくゝしきゝはハ。きさくゝなむならめる。かくておほ
御代も。いみゝゝまたちうゝり。ひむらゝ陸みさとの大官柱。
萬代ちけてやせらけく。さゝめたまひけることも。これのまを
ひのいさをならせやハ。おもゝハくゝ。いともくゝ。おほきな
るいさをなりけりな。おれハまなひのれやとすなる。よたり

陸うゝハさらまもいはす。うの教へをうけゝるも。さらぬも。
おのらむきくゝ。いさをある人々をえまいてゝ。うの人々陸
おのら世のうきり。心つくゝ陸おほかたを。志るゝとゝめて。
とほき世までみつゝへてんとて。こゝひわら友清官陸翁の
いとまめやゝみれもひおこされゝるハ。これもまゝといとあ
りゝたき心さゝみなむありける。されハこのいゝつきをも。
たつるいさをのゝすまゝうゝて。さてこのふみのはゝらき
とを。時ハ明治七年といふとゝ陸葉月かくいふハ上野の國
人黒川真頼

世々雑撰集の歌み、題いらはよみ人いらと、志るゝおられ
たる中みは、ゆゑありてことさらみ、れほめられたるもあり
と見ゆるを、他の書雑中みて、其故うのよみぬゝを見出たら
ん、いとうれゝかるへゝ、めつらゝなる書、をゝき詩歌も、う
の作者のゝられぬ、いとくちをゝきものなり、うの名志られ
ても、いつくのいゝなる人ならん、わきゝゝきまゝ口をゝ、近
き代み、あら學ひみゝけ、文詩たくみみ作りいてゝ人とも
ゝきりは、はやく先哲叢談もあるを、わゝ國のふることまな
ひみいたつきで、其名聞えゝる人ともをゝあつめて、其傳をも
のゝたるふみなき、あゝぬことゝ、年ころ思ひわたりゝを、清
宮の翁いちはやくおもひれこゝて、さきみ世み行はれゝる、

古學道統圖よりて、う誣訛れるをたゞし、もれざるを補ひて、其人々の傳をくも、くはへられざるは、いとうれしく、さるかさみ孫もころなるわさといふへく、あくてころ、此ひとく誣學のまぢ、人あら心のおもふきも、開けゆく御代の光とくもみ、世み顯れて、うのよめる歌、志るせる書を見るも、口をくあふれと思ふくまなく、一きひめてささもまさりつへけれ、あを思へば、よろを足はぬ事なき、今の御代と、つきくめつらうなる書やも誣、きほひ出来るハ、いとめてさく、うむうきあとなるき、うの中みハ、いたく異やうなるふしをもとめて、あるハ事乃あとのたかへる、又あるもなきも、ことなる事なきさまの書も、うちまゝて見ゆめるは、な

あくなるわさなるを、いひて書あきあらはれことならは、世の爲み人まとはしとならさらむて我、孫あはしけれ、あハいさくあまどうことめきて、口さあなきやうなきと、清宮ぬし誣まめわさを、うむうみれもふまゝ、いさくあ世誣若人たちみ申をなり、

明治十一年五月

東京みあてて本居豊頼

古學小傳はし書

古學といは、わが國に於てよき事乃ちあり、世々に移るこゝ言
 注葉のゆゑよきとき、ひろく考へよく明らむるをいひ、小傳
 とは、その學ひよきことつきり人たは注ありさまを、れほよ
 り記せるをいふ、うもく神代のこと、やうくうつもれて
 よき、ふるは神つらさの家、其大かさを傳ひて、心あるとも
 うらみ語り継ぎ、題詠の歌盛み行はれてより、其道の師とい
 ひ、是れ注家なといふも出來て、人を教へ事ころあれ、古へのふ
 る事と、言の葉のうつりあはりにこゝろいきて、あつとさら
 むとれしめをわさとして、あらさりき、さるを此三百年は
 ることなと、書よむわさ注、まさうまなりよき、やゝ古へ

を考へ知れる人も出來うめつきと、神道者、歌學者など、いはるゝ外ハ、いまの世を専門として、業を志する人もあらざりしう、元祿のころ、荷田東滿、僧契沖のふより世に出で、荷田ハ、神代のふるることより、國史乃あどをたつ絲、法師ハ、なら法葉の繁き林みわけ入て、いみへの詞をあたらめしを本として、加茂真淵ハ、稻荷山の藤をあふき、本居宣長ハ、加茂のなをきをくみて、れのく高きころさしをたて、神道者、歌學者法るときと法拙く、いまの志きを辨へ、あまの弟子み、わら國のふるき書を、絲もころにきしへみちひきしうは、世に國學者まゝ和學者など稱ふる大人たち、つきくこれうを出來て、このまなひを起せる中にも、其兩氏の門流なる、平田篤胤

は、神典よつとめいたつた、村田春海、加藤千蔭、藤井高尙、清水濱臣、法華は、歌文法みやひよよ、小山田與清、伴信友の徒ハ、事物と言詞と乃考證をむ絲と、各門弟子を教へ導きたり、まゝこ乃門流ならさるも、伊勢貞丈、塙保己一、富士谷成章、香川景樹、橋守部乃ことき、をくれ人のうのむ絲とせるをちみよとて、書をあらはし言をたて、後進乃益となれるうさはなるを、世みうの人々の傳など、うきあつめさるもの、あらされハ、千とせの法ち、其名の消えうせむこと、いとあさらしとて、わら友清、官秀堅のはやくれもひかこし、年月み撰ひと、のへて、この三卷となし、印刷志て世に廣くせんとれもふほとに、老乃つもりて、去年乃冬身まらぬるを、其むま子

事とて、こゝひあくも乃せるは、よく祖述志を成せりといふへい、おのを撰者とは、どころ注交ぬるゝ、こゝにより、順孫乃いゝつきて、をみやけく事成るをよろこぶかあまり、其ゆゑよゝきはいつかゝみ書つく

明治十三年五月

小中村清矩

古學小傳

題言

一此編ハ、皇國學問ノ傳來ハレルコトヲ、主張センタメニ作レリ、故ニ先ツ西山ノ君ヲ第一ニ置ク、君ハ大日本史其外種々皇國ノ史傳ヲ、著述シタマヘルコトハ、サラニモイハズ、凡契沖以下ノ人々、古ヘブリノ學問ヲトナフル輩、皆此君ニ基スレバナリ、次ニ契沖法師ハ、此道ノ蕪レル草萊ヲ芟除ヒテ、人ナイザナハレツルイサヲハ、世ノ普ク知ル所ニテ、ソレヨリ以下ノ諸子、見ル所精シキモ粗ラキモアリテ、種々ニ分レタレド、共ニ皇國ノ史傳ヲ註釋シテ、此道ノシルベトモナレル功少カラズ、故ニ其傳ヲ作りヌ、コレニ漏セルハ異日ノ補定ヲ待ツ、他家ハ其法徳ノコトヲ除ク、道同シカラザレバナリ、

一皇國ノ學問ハ、初メ朝廷ニアリ、中世僧徒ニアリ、近世地下ニアリ、コレ古ト今トノ變リナリ、學問セン人、古ヲ考ヘ、今ノ世ヲ立カヘリ見テ、先ツコ、ニ注意スベキ事ニコソ、
一此書載スル所ノコト、必ズ據ル所アリ、サレド行文ニ少シノ異同ノアルヲ、毎篇ニソノ由ヲ插疏セズ、瑣屑ヲ厭ヘバナリ、
一近世諸家ノ小傳ヲ立ルニ、印本ノ徵スベキナキハ、其家ニ就キ、履歷書年譜等ヲ乞ヒ、又ハ自ラ聞見スル處ニヨリ、敢テ杜撰セズ、
一著述ノ書ハサラナリ、生卒年月葬所ノ類ヲモ、燕雜ヲ厭ハズ、知ルベキモノハ、各其傳末ニ記ス、又故人ノ論贊、著書ノ序跋モ、生平ニ關係ルモノハ之ヲ載ス、

一姓氏ハ其人ノ稱ヘシ所ニ從フトイヘ、泛ク藤原ト云、橘ト云テハ、今ノ世ニテハ分チガタキ勢ナルヲ、シカ唱ルハ、古ニ泥ムノ失ナルベシ、故ニ此書目錄ニハ、人口ニ膾炙ルモノヲアゲ、本文ニハ、全ク當時ノ苗字ヲ載ス、
一陰陽五行ノ漢說ヲ傳會セシ神道、冥界ノ奇怪ヲ説ケル古學ノ類ハ、典章制度ノ備ハリタル世ニアリテハ、全ク要ナキ贅言ナリ、神道古學ト稱スル徒ニモ、ヲリヲリハ此類ノ說ヲ宗トセルモノモアレバ、容易ニハ信據シガタシ、コハ序ニオドロカシオクノミ、
一倭學ト云ヘバ、歌ヲヨムコト、ノミオモヒ、月ヲメデ、花ヲ玩ヒテ、アタラ月日ヲ費シ、アルヒハ伊勢源氏ノ、詞華言葉ヲヨロコブアマリ、丈夫ノ心ヲ失ヒテ、手弱女ノ風ニ習フ

ハ、何ゴトゾヤ、然^レバコソ倭學者ト云ヘバ、實用ニ立ヌモノト、世ノ人ノオモフモコトワリナリ、云マデモナキコトナガラ、第一身ノ行ヒタヤシク、制度治乱ニ明ラカニ、漢籍モカノ及ブダケハヨミテ、己レヲ用ル人アラバ、其用ニ應シ、用ラレザルモ、後ノ人ノタメニ、オモヘルフシヲカキノコサンコソ、眞ノ倭學者ト云ベケレ、サテ身ヲ修メ家ヲ齊ルハ、孔子ノ教ニヨルベキコト論ナク、オノハタラキモ、漢籍ノカヲカラザレバ、ハカバカシカラズ、契沖、縣居、鈴屋ノ諸先哲モ、ミナ其始ハ漢學ヨリ入ラレシナラズヤ、此コト春アツラヒサレド、尊内卑外ノケチメ、ヨク^レコ、ロシテ、其文ニ過ルヲバ慎ムベシ、

一 儒者ハ漢土ノ書ノミヲ讀ムヲ知リテ、皇國ノ史傳ハ手ニ

モフレザル人アリ、思ザルノ甚シキナラズヤ、或人ノ歌ニ「やまとふみ、いらぬやまどの、はかせたち、本をよふとふ、孔子よはちすや、ゲニイハレタルコトニコソ、サテハ孔子ノ魯ノ史ヲ、作ラレシ事モ思フベシ、

一 荒木田經雅ハ、儀式張解卅卷アリ、マタ高橋宗直ハ、寶石類書二百五十卷、外ニモカズ^レノ著述モアリトゾ、榎並隆璉ノ國史類函二百五十卷、源氏物語麻袋五十卷アリト聞ケリ、イカナル書ニヤ、近來飯田忠彦ガ野史三百餘卷、同竟宴集、ナトモアリトゾ、其書ヲ見タラン上ニ傳ヘ載スベシ

一本居宣長ノ古事記傳ハ、未曾有ノ偉功ナリ、凡本邦古代ノ制度語法、阿禮ノ強記、安曆ノ良史ナルコト、關幽顯微、復餘蘊ナシ、幾ント度會ノ神靈ノ、指導ニ出ルカト思ハル、仰キ

尊フベキコトニコソ、後人每事其說ニ相反スルナトハ、ナ
 ラズ譏レノ類ニテ、トルニ足ラズ、又鄭重株守スルモ、佞媚
 ノ類ニテ、善シトモ思ハレズ、但尤ナルコトハ尤トシ、謬誤
 ナルコトハ謬誤トス、是公論ナルベシ、

一天野政徳和學者ノ傳ヲ集メラレタリトキ、一日政徳ヲ
 訪シニ、歡接ノミニテ、集メタルモノナシト答フ、惟大石千
 引ノ傳ヲ贈ラル、サレド餘リ精詳ニテ他傳トツリ合ハザ
 レバ、ヨキホトニ節畧シヌレド、猶微細ニ過ルカトオモハ
 ル

一此書行文引書ノマ、ナルアリ、繁ナルヲ削リ、漏レタルヲ
 補ヘルアリ、體裁一ナラズ、異日大成ノ時、刪補ヲ加ヘテ其
 體面ヲ一ニセントス、

安政丁巳六月

清宮秀堅識

一維新以來ハ、格別ノコトナレド、十數年前ハ、皇國ノ學ヲナ
 スモノ、數十人ニ過ギズ、洋學ノ盛行ナルニ付テモ、古學ハ
 絶ハテンカト、杞憂ノ餘リ、此道ニ苦心セシ人ノ小傳ヲ集
 ント思立ケレド、最早老年成功覺束ナケレバ、先ツ集メ置
 キシ人ノミノ傳ヲ淨書ス、其校訂増補ハ後人ニ委ス、

明治十年八月

秀堅再記

此編王父曾テ著シ置シテ老後ニ小中村清矩大人ノ檢閲ヲ受ケ既ニ印
 刷ニ付セントレテ物故セリ不肖シバ、大人ノ居ヲ訪ヒナニシレト
 ナク心添テ受ケソノ誤レルカドハ大人ノ說ニ隨テ刪補シコタビ出版
 スルコトハナレリ因テ聊其由ヲ識ス

明治十九年五月

不肖孫立誌

古學小傳

古學傳統圖

○僧 契冲
 ○安藤為章
 今井似閑
 海北若冲
 野田忠肅
 下河邊長流
 ○戶田茂睡
 僧 澄月
 僧 慈延
 僧 涌蓮

本居春庭
 定代弘訓
 富樫廣蔭
 本居大平
 田中道磨
 横井千秋
 石塚龍磨
 植松有信
 植松茂岳
 千葉葛野

本居建正
 本居内遠
 千家尊澄
 衣川廣滋
 長澤伴雄
 加納諸平
 飯田秀雄
 石津亮澄
 北浦定政
 西田直養

○鴨 祐之
 ○北村季吟
 北村湖春
 北村季文
 望月長孝
 平間長雅
 有賀長伯
 有賀長基
 有賀長基
 ○伊勢貞丈

傳統不詳

富士谷成章

富士谷御杖

松下見林

藤原貞幹

荷田春滿

荷田在滿

荷田御風

賀茂真淵

荷田民子

菱田縫子

小野古道

本居宣長

藤井高尚

渡邊重豐

鈴木朗

衣川長秋

殿村安守

殿村常久

長瀬真幸

夏目甕磨

服部中庸

上田百樹

大館高門

三井高蔭

山内繁樹

熊代繁重

近藤芳樹

大橋長廣

衣川廣海

伊達千廣

妙玄寺義門

中山美石

岩山登波子

平田鐵胤

新庄道雄

岩崎長世

天野信景

大塚蒼梧

伴高蹊

伴資規

小澤蘆庵

前場默軒

小川萍流

海野游翁

仲田顯忠

清水謙光

谷川士清

加藤景範

栗田土滿

石川依平

狛諸成

林諸鳥

高橋秀倉

橘常樹

内山真龍

荒木田久老

荒木田久守

山岡俊明

北慎言

加藤美樹

萩原元克

渡邊重名

村田春門

村田嘉言

村田春野

山川真清

市岡猛彦

山本孝正

橋本稻彦

村田元庸

小篠敏

田中大秀

山崎篤利

野々口隆正

大畑春國

岡部東平

鈴木重胤

清水光房

前田夏蔭

小出翠庵

谷島武正

羽生田修平

市川真風

森田寬長

松岡辰方

松岡行義

三島自寬

大江廣海

大村光枝

尾崎雅嘉

細井昌阿

狩谷掖齋

岡本保孝

石川雅望

北静廬

村田了阿

上田秋成

其瀨朋友 村田春道

村田春郷

村田春海

伊能魚彦

日下部高豊

真淵朋友 加藤枝直

本居門 僧 海量

僧 立綱

犬上 衛

河津長夫

望月三英

渡邊堅石

加藤磯足

高林方朗

春柳種信

城戸千楯

興福院春登

平田篤胤

林 國雄

林 甕磨

和泉真國

稻葉通邦

伴 信友

伊藤光中

德應院昌順

草島蓮阿

井上淑蔭

今泉正興

堀内政雄

與清子 高田與叔

三小山田 間宮永好

鈴木基之

猿渡盛章

猿渡容盛

田沼善一

冷泉門三松原宗國門 横田美清

冷泉門 高井宣風

高井八穂

關岡野洲良

齋藤守澄

長瀬文豊

田山敬儀

山本正臣

契沖門 入江昌嘉

同 小山儀

太田全齋

藤原常香

源 敏樹

弓屋倭文子

進藤茂子

多勢子養子 餘野子

紅子

加藤千蔭

一柳千古

東幸門 中島廣足

吉田敏成

中山桑石

竹中玄洲

齋藤彦磨

近藤光輔

芳樹尼 黒澤翁磨

多勢子養子 村田多勢子

清水濱臣

鈴木安寛

井上勢廉

植村正路

長尾景寛

本間游清

山田常典

伊能穎則

鈴木雅之

神原芳野

北條時鄰

佐藤信古

瀧山知之

橋本好秋

子孫子 椿 仲輔

朝田弓槻

伊庭時言

山本明清

井上文雄

畠山常採

遠山長峯

川邊一也

堀 常子

橋 守部

橋 冬照

橋 登勢子

香川宣阿弥

香川景新

香川景平

香川黄中

香川景樹

岡田真澄

貞澄妻 一枝子

大石千引

天野政徳

米倉有年

岡 縫子

廣岡田鷗子

村山素行

伊庭秀賢

木村定良

木村繁樹

賀茂季鷹

江澤講修

岡見清熙

横山桂子

小山田與清

朝田弓弦

小林元雄

片岡寛光

瀨戸久敬

所 光被

小川伴鹿

原 久胤

本妙寺日善

草野御牧

横山由清

葦屋麻績一

丸林孝行

加藤千浪

小林百枝

寺山吾鬢

久松祐之

萩原宗固

後真淵門 塙保巳一

塙 忠寶

千葉直胤

香川景周

香川景恒

熊谷直好

山本清樹

本多夏香

富田泰州

穂井田忠友

山本嘉之

高橋殘夢

山田清安

八田知紀

松岡歸厚

千薩朋友 春海

清原雄風

宣長門 出雲園造

千家俊信

大平門 紀伊園造

俊和

一系ノ並ヒノ新古ノ次第ノ乱リナルハ筆ノ次ノ宜シキニ任スレバナリ

一都會ノ人ハ自ラ其名聞エテ大方ハ漏セルハアラジト思フモ遠キサカヒノ人ハ遺レルモ多カルベシソハ聞ニ随テ次篇一ノスヘシ

一此而ハ年頃見聞スルマニ書記シヌレバ謬誤モ多カルマシ後ノ校正ヲ待ツノミ

以上題言ノ末ニ京師萬葉堂主人トアレド全ク岸ノ本弓柳主ノモノセシナリト或人ハイヘリ

此ハ十數年前友人ノ言ニマカセテ謬レルヲ訂シ洩レタルヲ補ナヘルナリ猶遺レルモアルベシ後ノ補正ヲ俟ツ

小傳中ニ収メシ人ハ印ヲ以テワカツ 明治十年八月 秀堅識

中山信名

初宣長門 石原正明

永野美波留

屋代弘賢

栗原柳庵

山崎知雄

色川三中

萩原廣道

吉田令世

菅沼斐雄

僧 亞元

稻村三羽

木下幸文

山科元幹

中川自休

高橋知周

渡 忠秋

黒河春村

高橋廣道

内藤廣前

古學小傳引用書目

三哲小傳

古學道統畧

正續諸家人物誌

近代名家著述目錄

墓所一覽

近世畸人傳

正續近世叢語

群書一覽

鈴屋翁年譜

松屋翁傳

蝦玉集作者姓名錄

縣門遺稿

西山遺事

年山紀聞

縣居家集

聲文私言

琴後集

朮花

鈴屋集

玉勝間

春葉集

東歌 橘枝直

八十浦玉

玉襪

漫吟集

梨本集

近世名家書畫談

名家年表

近世三十六家集略傳

古學小傳目錄

卷一

、僧契冲 附年譜

、下河邊長流

今井似閑

、安藤爲章

、戶田茂睡

、荷田春滿 在滿御風民子

、賀茂眞淵 附年譜

、內山眞龍

、栗田土滿

、橘常樹

、藤原宇万伎

、山岡俊明

、上田秋成

、荒木田久老

、香取魚彦

卷二

本居宣長 附年譜 春庭大平

、橫井千秋

田中大秀

市岡猛彦

夏目麿麿

藤井高尙

石塚龍麿

清水濱臣

岸本由豆流

加藤千蔭

木村定良

平田篤胤

伴信友

伊能穎則

植松有信

鈴木朋

橋本稻彦

田中道麿

村田春海

足代弘訓

小山田與清

岡田真澄

大石千引

新庄道雄

椿仲輔

卷三

松下見林

北村季吟 湖春季文

伊勢貞丈

塙保巳一 附年譜

富士谷成章 御杖

小澤蘆庵

清原雄風

細井昌阿

石川雅望

屋代弘賢

北靜庵

鴨祐之

有賀長伯

天野信景

大塚蒼梧

伴蒿蹊

谷川士清

尾崎雅嘉

狩谷椽齋

關岡野洲良

海野幸典

村田了阿

大田全齋

香川景樹 堯興 景新

萩原廣道

色川三中

石原正明

中山信名

山崎知雄

橘守部

穗井田忠友

吉田令世

内藤廣前

黒河春村

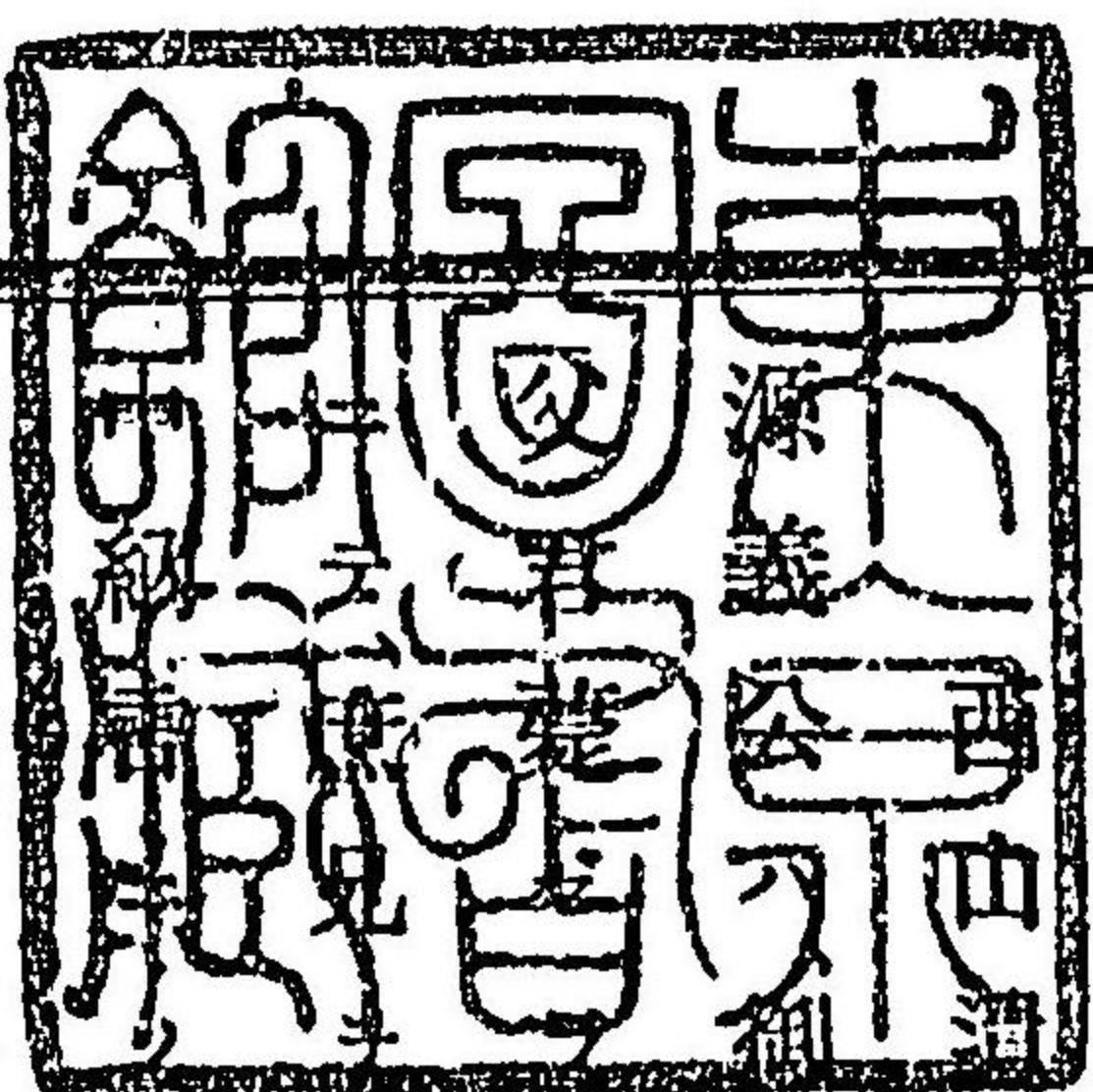
井上文雄

古學小傳卷一

清宮秀堅著

いその上ふるの、道をこけ見きハ

とりくみほふ八千くさの花



談

諱ヲ光國、字子龍、水戸威公ノ第三子也、六歳ノ時、
レタレド、未ダ世嗣ノ定メモナカリケレバ、台命
コエテ世子トナリ、正四位上少將ヨリ、從三位權
ボレリ、サレド年タケテ、深ク此事ヲ思召レ、兄ノ
子綱條ヲ養子トセラレ、元祿庚午ノトシ國ヲ讓リ西山ニ退
隠マシク、同十三年十二月六日薨セサセ給ヒヌ、御年七十
三、謚ヲ義公ト云ヒ、後權大納言ヲ贈ラル、君御年十八ノトキ、
史記ノ伯夷傳ヲ讀テ、讓國ノ御志アラセラレシガ、其時ヲ得

ズ過サセケルニ、寛文十年、御年四十三ノトキ、月朔ノ賀ニ登
城シ給ヒケルニ、本朝通鑑トイフ書、ナリタルトテ、執政ヨリ
示サレケルヲ、見給ヒシニ、皇國ノ始祖ハ、吳ノ太伯ノ後ナリ
ト云説ニ至リテ、大ニ驚キテ此書ノ開刻ハ止ラルベキヨシ
ヲ仰ラレケレド、ナホアカヌトニ思召ケルニヤ、同十二年ヨ
リ、礫川邸内ニ彰考館ヲ開カセラレ、明暦三年ニ、又史局ヲ駒
込別荘ニカマヘ、編修ノ史臣アマタ召出サレ、史料ノ文書ヲ
國々ニ召サセラレテ、遂ニ大日本史ヲ撰レケリ、モトヨリ皇
統ノ正閏ヲ正シタマフトコロニ、深ク心ヲトゞメサセ給ヒ
テ、神功皇后ヲ后妃傳ニ収メ、大友ノ皇子ヲ帝紀ニ載セ、三種
ノ神器ノ吉野ヨリカヘラセシ迄ハ、南朝ヲ正統トセシトナ
ド、義公ノ御卓見ナリ、其外禮義類典、扶桑拾葉集等、著セシ書

カゾヘアグルニイトマアラズ、又儒雅ヲ好マセ給ヒケレド、
皇國ノ書ヲ尊トマレ、湯島ノ御學問所ノナリタルヨリモ、六
國史ヲタテマツラル、最萬葉集ヲ好マセラレ、常ニ左右ニオ
キ給テ、契沖阿闍梨ヲシテ、代匠記ヲ作ラセ、アマタノモノ賜
ヒキ、サレバ圓珠庵ノ光リ世ニカマヤケル事モ、此君ノ思召
ノ餘澤ニテゾアリケル、君カク皇國ノ古ヲオボシオコシケ
レバ、儒臣ダチモ、專ラ皆我國ノ事ヲイソシマレケリ、湊川ニ
楠公ノ碑ヲタテラレシハ、サヲニモイハズ、明ノ歸化人朱舜
水ヲモテナサセラレシモ、學問ノトニテハナク、其節ヲ重シ
ゼラレシトハ、韓客ナドヲイトハセラレシニテモシラル、御
徳義ノトハ、ナホオホケレド、此書ノ體裁モアレバ、詳ニハイ
ハズ、スベテ皇國ノ學問ノ道ハ、此君ヨリヒラケシ事ハ、契沖

師トテモ、ナホ其恩賴ニゾヨラレケル、穴カシコ學問セン人

ハ、此君ノ高恩ヲ、ユノオモヒワスル、事ナカレ、

○聲文私言ニ我西山公釋萬葉集此書初ノ名萬葉集注トイフ、ヨ

リ、オボシメシタ、セルト有テ、御ミツカラモ考給ヒ、又難

波ノ契冲阿闍梨ノ、此學ビニタケタルト聞シテ、何タレ

ト間ヒ物シ給ヒキ、サテ釋萬葉集マツ首卷ト凡例トイデ

キタルヲ、安藤爲章ヲ御使ニテ、清水谷中納言殿ニ就テ、ヨ

シアシ定メラレントヲ請給フニ、誠ニ古今ニ雙ビナキ注

釋ナリ、萬葉ノ傳ハ、水戸家ヨリ受タリトテ、ヤカテ靈元太

上皇ヘ奉ラレケルニ、深ク敬感サセ給ヒテ、末ノ代マデノ

寶ナリ、皆ガラカクイデクベク申セ、オボシ寄セ給ハン事

ヲバ、上皇ニモ御筆ヲ加ヘサセ給ハム、亞相ニモ其考ヲ助

ヨトナン、仰下サレケル、釋萬紀原ソレヨリ後ハ、北村季吟ガ萬

葉拾穗抄、加茂真淵ガ萬葉考、荒木田久老ガ萬葉考槻ノ落

葉、橘千蔭ガ萬葉畧解、本居宣長ガ玉ノ小琴ナト、猶カズ

アレドモ、猶西山公ヲコソ、萬葉學ヒノ中興ノ祖トモ申ベ

ケレ、スベテ近キ世ニ皇國學ビノ盛ニナレルハ、皆此君ノ

恩賴ナリ、

○又云大友皇子ノ、天ツ日嗣シロシメシ、コトハ、水鏡大鏡

等ニ、正ク見エタルモ、書紀ニハハブカレタリ、サテ西山公

ノ英斷マシ、テ、大日本史ニハ、此皇子ヲ帝紀ニタテ、神

功皇后ヲバ、書紀ニ攝政元年トアルニ依テ、后妃傳ニ入レ

神器ノアル所ニヨテ、南朝ヲ正統トナシ給ヘルナドハ、誠

ニアリガタキ御事ニテ、コレゾコノ皇ヲミ國ノマナビノ

モト、アル、大和魂ニハアリケル、サルヲ歌ヨミ文カキ古
キ言葉ナドヲ考ヘ解フヲノミ、皇國學ノ業ト心得テ、ソレ
ヲシモミダリニ和學者國學者ナドイフハ、モノ知ラヌ人
ノ言トイフベシ、此ハ輒近國學者ノ心得ニモナレカレト、コハニ載ス、

梅里先生碑陰並銘

先生常州水戸産也、其伯疾、其仲夭、先生夙夜陪膝下、戰々兢
々、其爲人也、不滯物、不著事、尊神儒而駁神儒、崇佛老而排佛
老、常喜賓客、殆市于門、每有暇讀書、不求必解、歡不歡々、憂不
憂々、月之夕、花之朝、斟酒適意、吟詩放情、聲色飲食、不好其美、
第宅器物、不要其奇、有則隨有而樂胥、無則任無而晏如、自蚤
有志于編史、然罕書可徵、爰搜爰購、求之得之、徵以稗官小說、
摭實闕疑、正閔皇統、是非人臣、輯成一家之言、六祿庚午之冬、

累乞骸骨致仕、初養兄之子爲嗣、遂立之以襲封、先生之宿志
於是乎足矣、既而還鄉、卽日相攸於瑞龍山先塋之側、瘞歷任
之衣冠魚帶、載封載碑、自題曰梅里先生墓、先生之靈、永在於
此矣、嗚呼、骨肉委天命所終之處、水則施魚鱸、山則飽禽獸、何
用劉伶之鍾哉、其銘曰、

月雖隱瑞龍雲、光暫留西山峯、建碑勒銘者誰、源光國字子龍、

僧契冲

契冲阿闍梨ハ、字ヲ空心トイヒ、播磨守青山幸利ノ臣、下川善兵衛元全トイヘル人ノ子ナリ、幸利攝津國尼ヶ崎ヲ領セラレシホド、寛永十七年トイフニ、阿闍梨ハソコニ生レタリ、幼キホドヨリ、イトサカシタテ、父母ノヲシヘラレシ、ハカナキフミヲモソラニ誦シ、七歳ノトキ、重キ病ヒニ煩ヒ、今ハ醫師モ力及バズトイヒツルニ、北野天神ノ号ヲ、モ、タビ紙ニ書コト三七日、サルシルシニヤ、一夜アヤシキ夢ノツゲアリテ、ノチ病愈シヨリ、法師ニナラントノ志深クテ、サマ^レニ父母ニコヒシカド、許シナカリシカバ、自ラ雁輩ヲタチテ、常ニ佛号ヲトナフ、父母其志ヲウバフコトヲ得ズ、終ニユルシテ、其郷チカキ、今里ノ妙法寺ノ手定密師トイヘルガ弟子トナ

サレタリ、十三トイフニ、ミドリノ髮ヲソリ、初メテ高野山ニ
登リ、快賢律師ニシタガヒ、密乗ノコトヲ學ビ、其法ヲ苦修練
行セリ、後檀越ノ願ヒニテ、生玉ノ曼陀羅院ニ住メリ、既ニシ
テ其院ノ市ニ近キヲイトヒ、幾クモナクソコヲハナレテ、身
ヲ雲霧ニタマヘ、心ヲ山水ニスマシテ、長谷室生ノ靈場ニオ
コナヒ、久井ノ里ニカクレシヲ、手定密師ノ寂セルトキ遺命
イナミガタクテ、妙法寺ニ住持セリ、サテ其寺ノカタヘニ、家
一ツ作りテ、母ヲ迎ヘトリ、朝夕イトマメニ孝養セラレシト
ナン、母歿セシノチ、難波ノ東高津ニカクレ、チヒサキ庵ヲ結
ビテ、圓珠庵トイヒケルガ、元祿十四年ノ正月廿四日トイフ
ヨリ、イサ、カレイナラズト見エシガ、マタノ日此ニテ終レ
リ、年六十二、庵後ニ葬ル、其著セル書ソコバクアリ、師カタハ

高野山傳

總持院藏

ラ皇國ノ古ヘヲタヅ子、古言ノモトヲ考ヘ、誦ノシラベノク
ダレルヲナゲキ、アガレルフリニ、カヘサントシナリセル、カ
シコキ書ドモノ、世ニツタハリテ、アマ子ク人ノ知ルナレバ、
アナガチニイハズ、水戸西山義公ノイミシクオハシマシテ、
御國ノ古ヘヲタヅ子、絶タルヲツギ、スタレタルヲ起シタマ
フトテ、コノ阿闍梨ノシワザヲフカク慕ハセラレ、自カラセ
ウソコブミ給ヒテ、子ンゴロニメシツレド、世ステ人ノ何ヲ
榮エトテ、サルヤンゴトナキ御マヘニハ、ハヒ出ント、カタク
ノガレシカバ、安藤爲章トイフモノ知り人ヲツカハシテ、
ヨロヅノ事マナバセラレシトゾ、萬葉集代匠記、同惣釋ハ、此
君ノ仰セナカシコミカキテ參ヲス、西山公其卓見ヲヨロ
コビ、白金千兩、絹三十疋ソ賜ヒテコレヲ勞フ、師即寺院ノ修

古學小傳

六

總持院藏

造ニアテ、カツ貧乏ノモノヲ贖ハシテ一モ蓄ヘズ、又古今餘材抄、厚顔抄ナドイフ、メデタキフミドモアマタ參ラセケルニ、自ラノ手シテカキアラタメシ書、今ニカシコノ御文庫ニアリトナン、其心ノイサギヨキホドハ、オシテ知ルベシ、尙詳ナルコトハ、爲章ガカケル行實、五井蘭山ガシルセル碑文、僧義剛ガ錄遺事ナドニミエタルヲ、伴ノ蒿蹊ガ、近世崎人傳トイフニ載セタルヲ見ルベシ、

厚顔抄三卷

勢語臆斷四卷

百人一首改觀抄三卷

源注拾遺八卷

勝地吐懷篇二卷

河社五卷

類字名所補翼抄七卷

同外集九卷

萬葉集代匠記二十卷

同總釋二卷

和字正濫抄五卷

同要畧二卷

古今餘材抄二十卷 漫吟集又十卷

雜記一卷

雜々記一卷

釋萬葉集ノ跋

萬葉集之不明于世也久矣、如顯昭仙覺、雖纔窺一斑、未能通其全、况其他哉、常陽水戸西山梅里公、負文武才、藩于一方、政治之暇、把玩此集、思爲之解、凡歷幾年、所功成爲卷五十、題曰釋萬葉集、辱聞愚嗜之日久、使其臣安藤子爲章、資葉本來、命加校正、其爲書也、解辭達意、考字正點、或遠參和漢古今之典、或近就集中比較前後、自相發明、精詳周備、無有餘蘊、揭作者之意于千歲之上、解學者之惑于千歲之下、真如宵得燈而渡得船、公之賜不大哉、何更須愚有所增減也、因述其意以爲跋、元祿庚辰孟秋星夕 難波東高津圓珠庵契冲拜書 契冲ホウシノ墓ノイシブミ

僧契冲沒、實元祿十四年矣、沒卽塔于圓珠庵、庵在大坂東郊、距今四十三年、塋域荒蕪、款字漫剝、庵主源光憂之、將修焉、乃謀諸江友俊、素嗜爲和歌、學冲焉、議便能合、遂欲別造碑、而記其顛末、以列之冢上、乃俾余文之、余以弗識冲、且儒釋殊途也、辭焉、俊曰冲雖卽緇流、善和歌、及治萬葉集、而有功于訓詁者也、水戶義公之命詞臣爲萬葉集纂註也、介而請冲、固辭不就、於是乎撰代匠記以獻之、總釋副焉、則公嘉其善解古言、善釋古歌、乃餽白金千兩、絹三十四匹、以展謝之、冲卽散贖貧乏、修塔廟、一錢尺帛、不以隨身、公又閱古今餘材抄、至柿本太夫赤石和歌解、大服其卓見、乃復與書、強起之、辭曰、林壑之性、不刪拜趨、終不就、所著漫吟集二十卷、下河邊長流子序之、厚顏抄、改觀抄、勝地吐懷篇、各三卷、勢語臆斷四卷、源注拾遺、各所補翼、

各八卷、類字名所集七卷、和字正濫五卷、河社二卷、代匠記二十卷、總釋二卷、古今餘材抄十卷、冲爲人也、寬厚長者、謙恭愛人、強識博覽、旁通經史、嘗爲人說萬葉集、引證確實、雄辨如注、聽者悚然、以爲古行秘書之流亞、幼時、長流子誦其篇什、莫逆乎心、乃謂爲方外之交、相與唱酬、以爲得一鍾期焉、其優浮屠之法、卽具載水戶詞臣安藤爲章所撰行狀、及僧義剛所錄逸事狀、此冲之梗概爾、余聞之、嘆曰、斯異乎世僧之撰、其豈可以浮屠之故、卻之耶、乃取行狀讀之、冲姓下川氏、諱空心、祖考諱元宜、仕肥後守加藤清正、考諱元全、仕尼崎城主青山幸利、娶間氏生冲、五歲能誦定家所輯和歌百首、七歲、嬰疾幾死、乃懇父母爲僧、時年十有三矣、性恬澹愛靜、不欲主巨剎、晚住持攝之妙法寺、蓋爲邇母氏居也、母氏終、天年、乃退居圓珠庵、沒年

六十二、臘五十云、寛保三年癸亥孟冬、大坂五井純禎撰、
 此圓珠庵トイフハ、大坂ノ高津ノウチ、餌指町トイフトコ
 ロニテ、此法師ノ墓ハ、ソノ庵ノシメノ内、竹村ノカタハラ
 ニアリテ、マヘニ此碑ハタテリトゾ、オノレサイツコロ大
 坂ニユキテ、此高津ノワタリ物セシヲリ、イカデ立ヨリテ、
 此墓ヲモヲガマバヤト思ヒシヲ、日暮レカタニナリテ、ヤ
 ドレルトコロモ、ホドトホカリケレバ、道イソガレテ、エモ
 ノセザリキカシ、此碑ノ詞ハ、人ノ寫シテモタリケルヲ又
 寫セルナリ、玉勝問卷七 三十五丁

契沖ホウシノスメル庵

契沖ホウシノスメリシ、圓珠庵トイフ庵ハ、大坂ノ高津ノ
 アタリ、エサシ町トイフ所ニテ、今モ小寺ニテアリ、カノホ

ウシ此庵ニテミマカリテ、墓モソコニアリ、寛保ノコロ、五
 井純禎トイヘル儒者ノ書タル碑文モタテリ、抑此庵ハ、モ
 ト和泉國和泉郡池田郷萬町村ノ、伏屋某ノ家地ノ
 内幣垣園トイフニアリテ、ソコニ住タリシヲ、難波ニハ後
 ニウツシテスメルナリトゾ、サレバ彼ノ伏屋氏ノ家ニ、カ
 ノホウシノ、ソノカミヨミテ、ミヅカラ書タリシ歌ナド、多
 ク持チ傳ヘテ、今モ殘レルナリ 玉勝問卷 四二丁

契沖阿闍梨年譜

同三	同二	慶安元	同四	同三	同二	正保元	同二十	同十九	同十八	寬永十七	一
寅庚	丑己	子戊	亥丁	戌丙	酉乙	申甲	未癸	午壬	巳辛	辰庚	歲
般若經ヲ手定密師ニ受ケ譜記ス、											
大病ヲ煩フ、北野ノ社ニ祈リ、不思議ニ愈ユ、											
母問氏口ツカラ百人一首ヲ授ク、旬日之ヲ記ス、マタ實語教ヲウク、											
十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	歲

攝津尼ケ崎ニ生ル、

同四	同二	同三	明曆元	同二	同三	萬治元	同二	同三	寬文元	同二	同四
卯辛	辰壬	巳癸	午甲	未乙	申丙	酉丁	戌戊	亥己	子庚	丑辛	寅壬
剃髮高野山ニ登リ、快賢律師ヲ師トス、											
初テ百首ノ歌ヲ詠ス、											
津國生玉ノ曼陀羅院ニ住ス、コ、ヲ去ルノ歌アリ、											
十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	歲

貞享四	卯丁	四十八歳
元祿元	辰戌	四十九歳 貞享五年八月、信乃田ノ杜ノ楠ニテ作レル文臺ノ作詞ナル、 ○逃懐ノ歌アリ、 此頃代匠記序成、 九月廿三日
同二	巳己	五十歳
同三	午庚	五十一歳
同四	未辛	五十二歳 厚顔抄成、
同五	申壬	五十三歳 勢語懸断成、
同六	酉癸	五十四歳 和字正濫抄成、
同七	戌甲	五十五歳
同八	亥乙	五十六歳
同九	子丙	五十七歳 夏ヨリ秋ニ至リテ大旱ス、歌集中ニノス、○九月廿三日、昇仙石ノ歌並叙ナ ル、
同十	丑丁	五十八歳
同十一	寅戊	五十九歳 十一月廿五日、兄如水死ス、

元祿十二	卯己	六十歳 六十ノ賀宴ヲナス歌アリ、又今井似閑ノ賀叙アリ、
同十三	辰庚	六十一歳 萬葉集教頭書寫竟宴歌アリ、
同十四	巳辛	六十二歳 正月廿四日、疾革ナリ、其翌跌坐シテ遷化ス、

此ハ集中ニアル歌ノ年月ヲ記セルト、著書ノ叙跋トニヨリテ識セリ、洩レタルハ、見ム人補テヨ、

シレタルモノ、神ノ道トテトク事アルヲ

神代とて、いられぬことの、ゆゑのきを、なとあまのま、いひとなつらん、

宋ノ偏儒ヲマナフモノ、カタクナ、ルヲヨメル歌
トモ 原二 節一

もろこの、ひさの道の、ふることも、ことぢをつけて、引をひあなき、

下河邊長流ニ、ツカハシケル歌ノ中ニ、

これをうる、人の君のと、君をうる、人もあまとは、あらいとそおもふ、

下河邊長流

○
 下河邊共平ハ、初メ彦六ト稱シ、後長流ニ更ム、大和國宇田ノ人也、父某ハ小寄氏ナリケルガ、イカナル故ニカ、母ノ苗字ヲ稱ケル、元ヨリ妻子ヲモタズ、中年ヨリ津ノ國難波ノカタハラニ隱居ナシメ、靜ニ書ヲヨミ月日ヲ送ラレケル、中ニモ歌學ヲ好ミ、萬葉集、古今集、伊勢物語ナド、一見讀記シタリ、其學問ヲ聞傳ヘテ、大坂ノ富人ドモ、多ク弟子トナレリ、サレド世ニ諂ハヌ人ガラニテ、心ノオモムカヌヲリハ、富家ノ招ニモ應ゼズ、訪來ル人ニモモノヲモイハズ、枕ヲ高シテ臥シ、何事モ心ノマ、ニマカセテ過シケル、西山公其オヲ聞シメシ、召ケレドモ、終ニシタガハサリシカバ、紙筆ヲ賜リテ、萬葉ノ註

ヲ請ヒケレド、心ニムカヌヲリハ、筆ヲ擲チ、コ、ロニ向タル時ノミ筆ヲトリ、一二首ヅ、註シテオコタリガチニ侍リシマ、果サズシテ貞享三年六月三日身マカリヌ、年六十三、契沖師ト交リ深カリケレバ、師ソノ遺稿ヲアツメ、晚花和歌集トナツケ序ヲ識サレケリ、其集中ノ歌、述懐ノコ、ロナ、桂川、こゝろみあけ、一枝も、折らまぬ水み、身ハ、づみつ、契沖ガ山ニカクレテ、ヨメル俳諧ノ歌ニ、世乃中に、うめるこゝろハ、山柿の、まづほみ出て、くだけぬるあな、トヨメルナキ、テ、「世をうみの、へたより見てぞ、このもゝき、うの山柿み、身乃なれる人」トナン詠シケルトゾ、

- 萬葉集名寄四卷
- 林葉累塵集十卷
- 晚花和歌集一卷
- 萍水和歌集十卷
- 百人一首三奥抄二卷
- 歌仙抄二卷

續歌林良材二卷

累塵藻水艸

枕詞燭明抄三卷

○萬葉代匠記叙云、畧源朝臣物部ノ道ヲナラハシタマフイ
トマニ、文ノ道ヲモ好ミタマヒテ云々、ワキテ萬葉集ヲモ
テアソビタマヒテ云々、下河邊ノ翁長流ト云モノ、傳ヘオ
ケル文アリテ、ヨク此集ヲトクヨシヲ聞タマヒテ、コレガ
抄ツクルベキヨシヲ仰セラル、筆ヲトラントスルヲリシ
モ、スコシ心地タメラフトセシホドニ、イツトナクヤツレ
テ、年ヘテ身マカリヌル、ハ、ナシムベキホトニモ侍ルカ
ナ云々、

○伴蒿溪云、予聞ケルウチ、ヨシト覺ユルハ、つひみわが、着て
もあへらぬ、あらみゝき、立田や何の、ふるさとの山、此立田
ノ歌ヲ、右ノ桂川ノ歌ニアハセテ思ヘバ、ハシメハ出身ノ

望アリシカドモ、其オヲ知ル人ナケレバ、オモヒステ、隱
士ニ終ケルナルベシ、其萬葉ノ註語ハ、代匠記ニマ、ハ見ユ、
又季吟拾穗抄ニ、或説トテ出サレシハ、此人ノ説トオボシ、
其流義ノ説ニアラ子バ、不用トノミカ、レシニ、カヘリテ
道理ニアタレルガ多シ、歌ノ體ハ、契沖師ト此人同シ筋ナ
リ、契沖十七歳ノ時ノ歌ヲ見テ、オチ感シ、方外ノ友トナル
ヨシ、契沖ノ徒義剛モカケリ、
○晚花和歌集ノ序ノ詞ニ云、畧コ、ニ獨リノ翁アリ、唐錦立田
ノ里ニ生レテ、カノ名々、ル川ノ下河邊ヲ氏トシ、オシテ
ルナニハニアリテ、其堀江ノ水ノ長キ流レヲ名トセリ云々、
人トナリ此道ヲ好ミテ、月ノ夜雪ノ旦タノミル、ニツケ、
鳥ノ子ムシノ聲ヲキク、ニヨセテ思ヒヲウツシ、心ヲノ

ベズトイフコナシナカリケル云々、貞享三年サイツコロ、
身マカリヌ、タゞ物ノハシニ、書ツケタル歌ノミ残レルヲ
集メテ、晩花和歌集ト名ヅク、モシ今ヨリ行末ニモ、ホカノ
チリヌル、後ノ一木ト、青葉交リニ見ル人アリテ、今日ノカ
ザシニトメデタリケン心バヘナシラバ、春ニオクレシカ
ヒアリテム、

○

今井似閑

今井似閑ハ、号ヲ見牛トイヒ、家ノ稱ヲ偃鼠亭トヨベリ、京師
ノ人ナリ、隱居シテ六波羅ノ東阿佛屋敷ト云ヘルニ住メリ、
此家今尙殘レリ、大塚ニテ庭オモシロシ、見牛作
レル處ニヤシラズ、地ハ阿佛尼公ノ舊址ナリ、姪某ヲ養テ家ヲツガ
シム、似閑契冲ガ六十ヲ賀セル歌、いくはあり、六をぢたちぬ

を、わすきつゝ、ことゝいはふぞ、はゐなゝりける、終ニノゾミ、
藏書二百余部ヲ賀茂ノ神庫ヘ納ムト云不朽ヲハカルナリ
契冲ノ著書モ
ミナアリトゾ四十ノ自賀序ニ云六波羅密寺ノ東ニ、田ハタケ
ノアレタル所ニ、カリイホバカリナル屋ニ住ム翁、オノレハ
始メ、オヤノオコシツル家ヲ、コノカミフタリノツギキタレ
ルガ、時アリテ、オトロヘントスルサマニナレルヲ、ウケツタ
ヘテ、廿年アマリ、タゞコレヲモテ、ナヤミツルニ、ヤウゝタ
チナホルホドニナリテ、コゝニハウツレルナリケリ、ソノホ
ドノ事ハサキニカケル、ムロノ早ワセニ、オロゝホニ出
シツ、今年四十ニミチヌレバ、今ノ家ギミトアル人祝フワザ
トテ、彌生ノ花柳サカエニサカエテ、面白キヲリ、古キタメシ
一ツ二ツダニトテ、壽命經四十卷ヲ法師ヲシテ各ヨマセ、ノ

チアル尊キ寺ニナサム、錢四貫ヲカタ井ドモニトラス、翁ノ
年ゴロ、睦マシクスル友ダチ、ツドハシムレバ、コレモカレモ
ムレキテ、見ルモノ聞モノニツケテゾ、イハフメル、サルアヒ
ダニ、マフケヲ出セバ、心地ヨゲニ飲ミ食フアマリ、アルハホ
テウチタ、キ、アルハウツブク、ハラツマミ、クチブエ、皆ヨ
ク鳴リテ、今日ノガクニアタレリナド、マラウドモ、翁モ笑ヒ
クツガヘレバ、ツドフリヲワベハ、マタ顔ツキヲ見テ、ヲカシ
トニヤアラシ、ソデグチナドクハヘテホウエム、花モノイハ
子ド、カズナシヲ又バカリチリタルハ、コレヨリ後ノヨハヒ
ニクラベズヤ、柳風ニマフハ、ナニヲミトキ、シリテカ、ハラ
ツマミニハカナヘルナラン、ウタハズハ、老ノ極マルナゲキ、
イタラントイヘル、昔シ人モアレバ、イザイカニシテコシヲレ

又モノモガナトテ、マヅ翁ヨリヤマトウタニカカレリ、「花見つ
ゝ、わきだまうき身、わするゝを、誰とまりて、あ、おいらくハこん」
コレハ契沖師ナニハワタリニ、契沖ト云法師ノモトニ、聞ヘタレ
ハ、讀テオコセタル「老のくる、道ハ霞み立さへん、世のありあ
きみ、ちる花ハ見よ」

萬葉緯廿卷

萩原廣道云、似閑ガ師ノ六十ヲ祝ヒテアルシマウケシタ
ル、ゲニマメヤカニキコユ、オトロヘタル家ヲツキオコシ
テ、オイニユツリタルナト、イミシクユカシキ人ナリ、

○

安藤年山

安藤爲章ハ、初ハ号ヲ年山ト云フ、通稱ハ新介、初ハ丹波國桑田

郡千年郷小口村ノ人ナリ、兄爲實ト共ニ儒ヲ學、父朴翁ノ縁由ヲモテ、伏見宮ニ仕フ、後兄ト同シク西山公ノ召ニ應シ、水戸ニキタリ、彰考館ノ寄り人トナリ、日本史、及禮儀類典等ノ撰ニアツカル、兄ハ祿七百石、弟ハ三百石ナリト云フ爲實右兵衛尉トナリ、素軒ト号ス、博雅淹串、最通邦典、史館惣裁トナル、爲章ハ國學ヲ好ミ、詠歌ハ中院内府通茂公ノ門人ナリ、西山公僧契沖ニ、万葉集ノ註ヲ求メタマフニ及ビテ、命ヲウケ屢々浪花ニ到リテ、其説ヲウク、サレバ契沖ノコトヲ能知リ、ソノ行實ヲアラハシテ、年山打聞ニ又紀聞ノセタリ、凡此打聞ノ中ニシルス所ヲモテ、其學術モソノ人トナリノ温恭モハカリシラル、又紫女七論ヲ著シテ、式部ノ賢操才秀ヲ褒メ、源氏物語ノ大意ヲモクハシク論ス、尤稱スヘキハ家祿ヲマシタマハランノ命アリシト

キ、子ナキヲモテ辞シ、竟ニ他姓ヲ養ハズ、身歿シテ家亦絶タリトナン、人ノナシガタキ所ニシテ、吾分ニ安ズルノ義稱スヘシ、兄ノ家ハ水戸ニ今猶アリ、其子孫相續ストフ、享保元年十月歿ス年五十八

年山紀聞二卷 紫女七論一卷 榮花物語考一卷
千年山集一卷 年山歌集 宇津穂物語考一卷
手向草一卷

忍艸ノオクニ

志のぶくさ、露のゐくても、おもひきや、まごうゑをへて、袖ぬきんとは、
彰考別館紅葉ノ宴詩歌ノ序 文器
万代み、つとへててらせ、もごちもの、色もはにある、のきの光さ、
西山公江戸へ赴カセ給フヲ送り奉ル和歌 五首 ○元祿七年
一すちみ、いのるこゝろ乃、まごときは、みち乃ちまごの、神もうけすや、

父定爲ハ、新五郎ト稱シ、朴翁ト号ス、初伏見宮ニ仕、冷泉爲景ニ經義ヲ學ヒ、木下長嘯子ニ和歌ヲ學ヒ、從六位上トナリ、マタ右京進、從五位下、右京亮、從五位上、内匠頭トナリ、年五十二致仕ノ後、祖父ノ故址、千年山ノ麓小口村ノホトリ、曾祖維翁ノ抱琴園ヲ修理シ、老ヲ安ンス、年六十ノ時、山家記トイヘル一篇、年山打聞ニノス、陶靖節ヲシタヒ、歸隱ノ圖ヲ自ラ壁上ニ畫キ、其集ヲツ子ニ左右ニオケリ、又佛理ニ參シ、且樂ヲ好ム、其國ニ八ツノ景アリ、ソヲ自ラ寫シテ子孫ノタメニ殘ステテ、千年山、八つのさゝひを、寫し繪の、これだみ殘れ、問ふ人のとめ、元祿十五年壬午八月二十三日歿ス、年七十六、

常陸帶一卷

戸田茂睡

戸田恭光ハ、字ヲ茂睡ト云、御家士ニテ退隱セシ人ナリ、号ヲ露寒軒トモ、又隱家トモ、梨本トモ、モトメヌ橋トモオヘルハ、ソノヨメル歌ニヨレリ、サレド其隱家ノモトノ歌ハ、書アヤマテルニヤ、イトモ心得ヌコトノアレバ爰ニ漏シヌ、隱家百首トテ、其相シレル人ニ、讀ル歌ヲアツメタルモノアリ、其初ニ出セルハ、スム庵ヲ世ノ人ノカクレ家ト云ヲキ、テ一人レハ、身まゝあすきは、おのづゝら、もとむともなき、あくれ家にして、梨本ト云フハ、モトヨリ其庵ノ前ニ、山梨ノ木アレハ、「乃がれあね、世にふり果し、老の身ハ、隠れすむへき、山梨のも」と、モトメヌ橋トイヘルヨシハ、源義豊ト云ヘル人ノモトヨリ、隱家ハ、山も求めき、世を渡る、ためみやあけし、まへの棚橋

ト讀ミテオコセタル返シニ、わら庵ハ、山ももとめき、棚は
の、みおろくゝつる、世を渡るほど、トイヘルニヨレリトナシ、
此人梨本集トイフモノヲ著シテ、制詞ノ類ヲ舉テ、琴柱ニ膠
スベカラザルヲ論ズ、凡歌道ニ古學ヲ稱スルハ、此人近世ノ
魁ナリ、サレバコ、ニ其説ヲ記ス、其序ニ曰ク、何レノ比ヨリ
カ、歌ノ詞ニ制トイフヲ言出シ、五點ノ詞、主アル詞、讀ムマ
シキ詞、遠慮スベキ詞、俊成ノ好ミ讀ベカラズト宣ヒシ詞、定
家ノ不庶幾ト宣ヒシ詞、ニクシト云詞、イトシカラズト云詞、
トイヒテ詞ニ多ク關ヲスエテ、人ノ趣キ難キヤウニ、道ヲ狭
クスルコトハ、以ノ外ノ邪道、歌ノ零廢スベキ端カト思ヘドモ、
歌ノ道不案内ナルニ、能キ師モナケレバ覺束ナサニ、此冊ヲ
思ヒ立テ、不審ヲカキシルスモノナリ 云々、惣シテノコト、六條

家ノ説チバ、二條家ヨリイヒヤブリ、二條家ヲバ冷泉家ヨリ
ソシリ、其後ニハ爲世卿ノ門弟、爲兼卿ノ門弟、爲相卿ノ門弟
ト、各其家々ヲタテントテ、他ヲソシリ、我意地ノマ、ニ利口
ヲタツルヨリ、色々ノ僻言出來タリ、又ハ其師匠ノ物語ニ、タ
トヘバ、ホノボノトト云五文字ハ、人丸ノ名歌ノ五文字ナリ、
然ハ心得シテヨミ候ヘナド、イハレタルヲ、ソノ弟子覺書
ニシテ置、又ハ物語シタルヲ、其譯ヲバシラズ、讀ベカラザル
五文字ト制セラレシト云傳テ、今ハヨマヌコトニナリ極レリ、
ツ、トマリノコトヲ、法度ナリト云ハ、タトヘバ其家ノ仕置ニ、
酒ヲ呑ムベカラズト法度ニ立、物見スベカラズトアルニ同
シ、此法度ナケレバ、酒ヲ過シ遊興ニバカリ耽リテ、作法ノア
シクナルユエナリ、然ルニ正月又五節句、祝言珍客ニモ、酒ハ

家ノ法度ナリトテ出サズ、正月ノ萬歲、伊勢ノ太々神樂ノ太鼓打ヲ見ルナト、制スル如クニ、ツ、トメナモ云ハ、僻言ト思ヘドモ、是非ナシ、云々 序文猶カ、ル議論多ク、本文ニハ近古制セラレシ詞ヲ題シテ、例ヲ引キ、ハタ制ノ詞トタテタル一冊、其外詞ノ註ノ證歌、主アル詞ナド云モ、ミナ新古今集ノ歌ノ下ノミヲ書テ、他ノ下ヲ用ザルハ、新古今集斗リ、知リタル人ノ仕出シタル下ノヤウニオボユナド云ヘリ、歌書ニオキテハ、古ヨリ近世ニ及ンテ、甚博識ト見ユ、寶永三年四月十四日歿ス、年七十八、淺草新寺町白雲山金龍寺ニ葬ル、

オハヅカシー巻 茂安ガヒトリゴト 僻言シヲベ一卷
 庄九郎物語 紫ノ一本四巻 若ムラサキ
 鳥ノ跡 隱家百首一卷 梨本集四巻

○或書云、戸田茂暉、初名ハ八兵衛、後渡邊茂右衛門恭光ト云、梨本庵、マタ寒露軒ト号ス、寛永六年五月十九日、駿府御城三ノ丸ニシテ生ル、渡邊監物忠カ六男ナリ、父ノ忠ハ、戸田與五右衛門忠勝ガ次男渡邊山城守ガ智養子トナリ、後駿河亞相卿ノ老ニ命セラレ、六千石ヲ賜リ、後亞相卿ノ御事ニテ、下野那須郡上庄黒羽ニ閉居ス、此トキ翁ハ四オナリ、後御免ニテ、江戸ニ住ス、ソノ頃兄渡邊久左衛門善石七千ヨリ合力ヲ受テ、伯父戸田藤右衛門ガ許ニ養ハル、コノ時伯父ノ厄介ニテ、本多家國忠ニ仕フ、三百石ヲ賜フ即本郷森川宿邸中ニ住ス、門ニ大木ノ梨アリシヲモテ、梨本庵トハ号セシナリ、戸田ハソノ儘伯父ノ氏ヲ名乗リシモノカ、後延寶ノ末年仕ヲ辞シテ、金龍山ノ邊ニ居住スル下紫ノ一本ニ見

ニ、云々

○又云、元祿ノ比ニヤ、江戸淺草ノ市人ニ、茂助ト云モノアリケリ、馬金守門ノ風ヲ慕ヘリシガ、アル時ヨメル歌「ちりの世」と思ふこゝろ注、積りてハ、身の隱家の、山とかり多シ此歌天聽ニ入テ、叡感アリケルヨリ、世ノ人カクレ家ノ茂助ト呼ケリ云々

梨本集ノ末ニ元祿十一戊寅年五月日露寒軒入道梨本

隱家撰之トアリ其跋文ニ

此一冊ハ梨本茂睡ガ作也、庵ノ前ニ山梨木一本有シユエ、梨本トイフトゾ、乞食ノヤウニイヘドモ、此書ヲ見レバ、非人トモイハレズ、狂人カトイヘドモ、猥ナル行跡ナシ、常ニ筆ヲ友トシテ、煎茶ヲ吞ンテ、ソノ身ノ樂トス、齡七旬ニ餘

レニ、嚴寒ヲフセグ便リナク、薄衣ヲ着シテ、身ノ暖マル事ナシ、然レ是ヲウシトモ思ハズ、無學無智ニシテ、道理ニ通ジ、歌學ヲモットメザレバ、歌ヲモヨムナク、此書ノ趣ノ如ク、僻言ヲカナシム、作スル書、オハツカシ、茂安カ獨言、僻言シラシペナド云アリ、紫、一本、若紫、隱家百首、庄九郎物語モ、茂睡ガ作トイフ、
元祿十二己卯年七月日
從五位下源朝臣

○ 荷田春滿

荷田春滿ハ又東麻呂トモ本氏ハ羽倉、初信盛ト云ヒ、通稱ヲ齋宮ト云、洛南稻荷山ノ祠官ナリ、父ヲ信詮ト云、兄弟四人アリ、長ハ女子、次ハ春滿、次ハ信名、次ハ宗武、イカナル故ニヤ、春滿家ヲ嗣カズ、弟信名ヲシテ家ヲ續シメ、自ラハ國學ノ復古ヲ任トス、

國史律令古文古歌、及諸家ノ記傳ニ至ルマテ、該博ク通ゼザルナシ、尤神代ノ卷、万葉集ニオイテ一家ヲ成セリ、契沖ト時ヲ同シフスレド、契沖ハ佛者ナルウヘニ、其人綿密ニ過テ、拘泥セルモノモマ、見ユルヲ、此翁ハ一層登リテ説ヲ立テリ、凡元祿年間ハ、諸道復古ノ運ニアタリタル時ニテ、國學ヲ唱フルハ、契沖ト此翁ナリ、ヨミ歌ハ、主トスル所ニアラザレド、凡ナラズ、又中世以後淫靡風ヲナセルヲイキトホリテ、生涯戀歌ヲ詠ゼズ、ソノ家集ヲ見ルニ、當坐ニ寄セ戀ノ題ヲ探リテハ、其物ヲ雜ニナシテヨメリ、タトヘバ虎ニ寄スル戀ヲ雜ニヨメルハ「仇むくう、おもひ巴提使に、さへてハ、虎もつとなき、もの」とこそ、日本紀欽明卷ノ故事ニヨリテ、讀レシモ、學者ノシワザナリ、巴提使、百濟國ニ使シテ、虎ノ爲ニ小兒ヲシラレ、雪ノ中ニ虎ノ跡ヲトメテ居タリシヲ、其虎ヲ

殺ス故、又書トイフ題ニテ、ふみこけよ、倭よのあらぬ、漢島の跡事ナリ、又書トイフ題ニテ、ふみこけよ、倭よのあらぬ、漢島の跡を見るのみ、人の道ありハ、ト詠レタリ、享保中、江戸ニ遊ビ聲名アリ、有徳公其名ヲキコシメシ召タマヒケレド、老タリトテ辞サレヌ、サレド萩原宗固、山岡明阿ナドノ古學者出テ、其人々ノ門ニ、塙保己一、屋代弘賢ナド出ルモ、春滿ノ唱ヘラレシニヨルナリトゾ、國學ノ學校ヲ京師ニ開カントテ上書シ、官ノ許ヲ得、既ニ地ヲ東山ニトスルニ及シガ、東本願寺ノ墓ノ邊トイフ、病ニ罹リヲ成ラズ、元文元年七月二日ニ身マカリヌ、年六十八、其贅ヲ易フル日ニ、侍兒ニ命シテ著述ノ草稿數種ヲ採テ竊ニコレヲ焚ケリ、是ヲ以テ其存スル者イタバクモナシ、稻荷山ノ南阿里山ニ葬ル、子ナシ、姪在滿養子トナル、

萬葉集童蒙抄 八十卷 出雲風土記考 一卷 校正江談抄

伊勢物語童子問 五卷 偽類聚三代格考 五卷 春葉集 二卷

○或云、春滿江戸ニアル日、大高源吾ト友タリ、巳レ吉良氏ノ邸ニ出入スルヲ以テ、詳ニ見ル所ヲ圖シテ源吾ニ贈リシト、其人ト交ル、苟モセザル想フベシ、

○春葉集荷田信美ノ序ニ曰、イデヤ、學ビノ道ハ、天カ下ノ大路ナレバ、オノレ獨リタテラムガゴト、ホコルベカラズ、マナブ人モ、師ノ教ヘナリトテ、アナガチニナヅム可ラズ、皇御國ノフミ見ン人ハ、先ツカラブミヲヨミテ、コトヲワキマヘ、シグレフルナラノ林ニワケ入、神代ノ官木ヒキ、チヨノフル道跡ヲトメツ、マスヲ雄心ヲオフシタテ、高キ代ヲシタハ、ナドカ昔ノ手振ニイタラザルベキ、歌モシカリト、ツネニ翁ノイヘリシトゾ、又云、ヲトコ女ノナカラ

ヒ、何クレノモノニヨセ、心ニモアラヌアダシヲイヒ出セルハ、マコトヲ述ル歌ノホイナラズトテ、戀ノ題ヲフツニヨマズ云々 春葉集ニ、年九歳ノナリ、山ニ鳥狩シ詠セラレタル歌ナリトテ、稻荷山、今日ハ小鳥此、音をたえて、ねどするものハ、谷川の水、其少年ヨリ、英才ナルコト知ルベシ、

○國歌八論ニ云、養父春滿幼ヨリ古學ヲ好ミテ、終ニ發明論破ス、其說契沖ト暗ニ合ヘルモノナリト○、或書ニ、契沖晩年ノ門人トスルハ、此說ニテ、其誤リ自ラ知ラル、ナリ、在滿ハ、字ヲ持之ト云、号ヲ仁良齋トイヘリ、通稱ヲ東之進ト呼、春滿ノ姪ナリ、春滿ノ養子トナリ、國學ヲ唱へ、殊ニ令式ノ學ニ志シ、家聲ヲオトサズ、享保中、幕府ノ命ヲ奉リ、大嘗會ノ故實ヲ録シテ上リヌ、又禮注ヲ作り、並貞觀儀式ヲ校シテ上リヌ、黄金若干ヲ賜ハル、後ニ大嘗會具釋、同便蒙等ヲ著ス、今

代故實ノ行ハル、ニヨリテ、其考證ノ明ナルモ、アラハルト
ゾ、嘗テ國歌八論ヲ著シ、後世ノ弊ヲタメラル、又百人一首故
説トテ、此人ト眞淵ト共ニ著セルモノアリ、眞淵ノ初學ビハ、
是ニモトツケルナリト云、享保中、家ヲ江戸ニ移シ、田安家ニ
仕ヘシガ、學義遇セス、疾ヲ以テ辭シテ、加茂眞淵ヲ薦メテ代
ラシメ、終ニ祿ヲ辭シ、再ビ仕ナモトメズ、平生稱スベキコト
多シト云、寶曆元年辛未八月八日歿ス、年四十六、淺草金龍寺
ニ葬ル、

本朝度制畧考一卷 家記所繫考一卷 白猿物語二卷

長月物語

古今集左注論一卷 令三辨一卷

萬葉一辭一卷

國歌八論一卷 大嘗會具釋九卷

大嘗會便蒙二卷 裝束彙考

御風ハ、初メ冬滿、字ヲ子玄ト云、東藏ト稱ス、在滿ノ男ナリ、家
學ヲ嗣ギ、江戸ニアリ、業ヲ問フモノ甚々多シ、性強記ニシテ
一度目ヲ過レバ、終身忘ル、コトナシ、人トナリ洗洋自恣ニ
シテ、最酒ヲ嗜ミ、檢束セズ、或ハ人ノ爲ニ諂ヲレド、毫モ意ニ
芥セズ、冷然自得ス、家甚々貧ナレドモ、祖考ノ志ヲ繼ギ仕ヘ
ズ、岡侯コレヲ憐レミ、延招賓トナシ、邸中ニ居ヲシム、然レド
モ、其志ヲ知り、餼稟ヲ送ラズ、天明四年甲辰八月十六日歿ス、
年五十七、淺草金龍寺ニ葬ル、

西遊紀行

家集

惟徳ハ、字ヲ子馨ト云、東之進ト稱ス、御風ノ義子ナリ、原姓ハ藤
ノ、父祖ノ遺業ヲツギ、有職ニ名アリ、文政十年二月歿ス、年六
十三

民子ハ、一番生在滿ノ女ナリ、幼ヨリ父ニ從ヒ、兄御風ト共ニ和歌ヲ學ビ、年タケテ某氏ニ嫁セシガ、幾ホドモナク、夫ヲ失ヒ、家ニ歸リ、後再ビ嫁セズ、紀伊ノ女公子ニ仕フ、年四十九、仕ヲ辭シ、淺草ニ居ナシメラル、土佐侯、姫路侯、岡侯等ノ女子弟子ノ禮ヲトリ、和歌ヲ學ブモノ多カリケリ、天明中、疾ヲウケ革ナルヤ、在滿ノ弟子、澤元愷來リ見テ、懇ニ草稿ヲ問ハル、民子云、コレヲ造化ニ返サンノミ、何ヲ以テ世ニ傳ヘント、六年二月二日身マカリ又、年六十五、淺草金龍寺ニ葬ル、民子平生容ヲ慎マレ、妝ハザレバ人ヲ見ズ、故ニ其病ヲ知ルモノナシト云、

杉ノシツエ一卷

○伴蒿溪云、荷田ノ刀自ノ歌ドモヲツドヘテ、杉ノ下枝ト名

ヅケラレツルハ、其門ニ學ビナラヘル、縫子ガイサヲトカ、コナ村田ヌシノモトヨリ、送リタマヘルガ、メヅラシウ、古ノ手振ノナダラカニ、ケダカキサマニ心エヒヌ、サレバウチオモヘルマ、ノヒトクサヲ、カイツケテナン、稻荷山、ふりみー道み、のほりける、跡もあーこき、杉の下蔭、カク書テ吾妻ニツカハシケルヲ、縫子イタクヨロコビテ、ヤガテヨソヒクハヘテ、壁ニカケラル、ハタ千蔭、春海ノトモガラモ、ヨロシキヨシイヒシロヒケルト、雪岡ヲチヨリ、ツタヘラレシモ、カヒアルコ、チシケル、云々

○ 賀茂真淵

賀茂真淵ハ、遠江國敷智郡伊場村ノ岡部ノ新官ノ禰宜定信

縣主ノ二郎子ニテ、母ハ同郡山王村ノ竹山氏ノ女ナリ、姓ハ岡部、字ヲ初メ參四トイヒ、後ニ衛士トアラタメラル、縣居ハ其家号ナリ、庭ヲ田居ノサマニツクリテ、賀茂氏ノ尸ニシモヨレバトテ、住所ノ名ニハセラレヌ、元祿十年ニ、伊場村ニテ生レ、初メハ漢學ニ心ヲヨセ、作ラレシ詩ナド多カリ、享保十八年、京ニノボリテ、荷田、東磨宿禰ノ門ニ入り、皇國ノフルコトノ學ニ秀テ、カウバシキ名古今ヲオホヒ、天ノ下ノ物學ヲ輩、ソノ風ヲ慕ハザルハナシ、抑古學ハ、難波ノ契沖法師、荷田、東磨宿禰ナドガ、魁セシニ起レリトイヘドモ、眞淵出テヨリ、專ラ、サカリニナリケリ、江戸ノ醫士小野古道ヲハジメ、ツギ、ソノ道ヲ受ケシ徒、三百人ニ餘レル中ニ、藤原宇万伎、村田春郷、楫取魚彦、橘千蔭、村田春海、本居宜長、荒木田久

老ナド、其名世ニトマロケリ、村田春道、橘枝直ナドハ、ウルハシキ友ニアリケリ、眞淵ハシメ濱松ノ驛長、梅谷甚三郎ガ養子トナリテ、市左衛門ヲ生ム、ソノ家今ナホ驛長ニテ、濱松ニアリ、故アリテ寛保三年、江戸ニ下リテ、村田春道ガ家ヲアルシトシ、遂ニ八町堀ナル、橘直技ガチカ隣リニ家ツクリテスミ、老ノ末ニナリテ、明和元年ノ秋、濱町ニウツリヌ、延享三年、田安ノ大殿ニメサレテ、ヤマト學ノ師ニナラレヌ、大殿ヨリ葵ノ御紋ノ御衣ヲ給ハリシヨリ、あふひてふ、あやの御衣をも、うち人の、あづかんものど、神やいそけん、トヨミテ奉リヌ、又寶曆五年ノ秋、イデ居ヲ古ヘザマニツクリケル時ヨメル、飛彈さくみ、ほめてつくれる、眞木柱、さてい心ハ、動かざらま、同十年十一月六日、致仕シテ義子ノ次郎左衛門定雄ニ家

ナ繼ガシム、明和六年十月卅日、齡七十三ニテ身マカリヌ、江
戸ノ南品川東海寺ナル、少林寺ノウシロノ山ニ葬リテ、玄珠
院眞淵義龍居士ト法ノオクリナス、家集二本アリ、藤原宇万
伎ガ弟子ノ上田秋成ガ梓ニエレル本ト、村田春海ノカウガ
ヘタゞシテ、スリカタギニモノセラレシ本トナリ、コレニモ
レタル歌ヤ文ヤ、コ、カシコニチリボヒキコエシモ、又スク
ナカラズ、

萬葉考 附別記

國意考 一卷

冠辭考 十卷

語意考 一卷

サイハリコトノ譜 一卷

祝詞考 三卷

ニヒマナヒ 一卷

神樂歌考 一卷

催馬樂考 一卷

古器考 一卷

伊勢物語古意 六卷

同大意 六卷

百人一首初學 五卷

源氏物語新釋

歌意考 一卷

文意考 一卷

古事記私記 一卷

古事記訓考 一卷

假字書古事記

神代紀訓考 二卷

山問文神代卷 二卷

萬葉新採百首解 二卷

古今考 附別記

古今新採百首 一卷

古今集私記 一卷

書意考 一卷

古今集序傳說 一卷

古今集打聞 門人所記 二十卷

百人一首古説 四卷

延喜式祝詞解 六卷

古冠考 一卷

十二月考 一卷

雜問答考 一卷

竹採翁長歌考 一卷

外宮考 一卷

眞淵雜錄 一卷

法華發講奉對案 一卷

淨土三部假字抄言釋 二卷

車服拔萃 一卷

田安奉對案 數種

東歸 一卷

西歸 一卷

應問稿 一卷

カサネノ色アヒ 一卷

千歲筐 一卷 大人ノ墨帖ナリ

本言

落久保物語頭書 四卷

縣居歌集 三卷

賀茂翁家集 五卷

○伴蒿蹊云、眞淵ニ及ヒテ、初メテ万葉ノ風ヲヨミウツシ、文章モマダ古言ヲモテツマリ、一家ヲ成セリ畧、實ニ古ヲ發揮シテ、後生ヲ誘ナフ功少カラズ、生涯國學ヲ任トシテ、江戸ニ終ル、ヨミ歌ハ門人宇万伎ガ記シオケル中、其住居ヲ縣居ト名ツケ、ル所ニテ、ナガ月十三夜ニヨメル、縣居の、茅生の露原、あき²けて、月見²來つる、都人²あも、

○家集ニ二月晦日、^{三年、延享}本所ト云所ニ火起リテ、家トモ多ク焼ケニケリ、ソノ夕ツカタ風モ荒ク、空ノケシキアカクチリダチテ、コ、ニシモ火アルカト覺エタルヲ、其夜亥ノ初バカリ、十町バカリ南ヨリマタ火イデキテ、ホドナクオノガ家モヤケヌ、昔ヨリ心ツクシテカウガヘツ、物多ク書ソヘタル書ドモノアレバ、コレヲバクラニモ入レシ、イ

カデ、便ヨカラシ所ヘワタシヤリテム、今ハトテノガレイデナン時、從者ノ手ゴトニ持セントカマヘテ、先ソノ事ヲトリシタ、ムル程ニ、調度ドモ心ニモイレズ、夕²クラノ戸口ニヒチリコヌリ、マカナハセテ立出ヌ、程ナクミナ烟ニコモリテケレバ、源ノ簡^{モラ}ガモトヘ行テ、夜ヲアカシヌ、ナニバカリノ家ナラネバ、ナゴリモサシモアラネド、マダ草ノ庵結バムマデハ、人ニヨリテアランモ、クルシカルベシ、春の野²津、やけの、雲雀、床をなみ、烟のよろみ、迷ひてぞなく、

縣居大人ノ傳

縣居ノ大人ハ、賀茂縣主氏ニテ、遠祖ハ、神魂神ノ孫、鴨武津之身命ニテ、八咫鳥ト化リテ、神武天皇ヲ導キ奉リ給ヒシ神ナルヲ、姓氏錄ニ見エタルガ如シ、此神ノ末、山城國相樂郡

岡田、賀茂、大神ヲ以齋ク、師朝トイヒシ人、文永十一年ニ、遠江國敷知郡濱松、庄岡部、郷ナル、賀茂ノ新宮ヲイツキマツルベキヨシ持明院殿ノ令旨ニヨリ、彼郷ヲ賜ハリ、スナハチ彼、新宮ノ神主ニナサル、乾元元年ニモ、院宣ヲ蒙リテ、彼ノ岡部ノ地ヲ知ルヲ舊ノ如シ、コノ院宣ハ、家ニ傳ハレリ、カクテ世々彼ノ神主タリシヲ、大人ノ五世ノ祖、政定トイヒシ、引馬原ノ御軍ニ功有テ、東照神御祖君ヨリ、來國行ガウチタル刀ト、丸龍ノ具足トヲ賜ハリヌ、此事ハ三河記ニモ見エタリ、サテ、大人ハ元祿十年ニ、此岡部村ニ生レ給ヒキ、舊ハ岡部ト伊場ト兩村ナリシヲ、今ハ一ツニ併セテ伊場村ト稱フ、若カリシホドヨリ、古ヘ學ニ深ク心ヲヨセテ、享保十八年ニ、京ニノボリテ、稻荷ノ荷田ノ宿禰東鷹、大人ノ教ヲウケ給ヒ、寛延三年ニ、江戸ニ下リ

給ヒテ、其後田安殿ニ仕奉リ給フ、明和六年十月晦、日歲七十三ニテ身マカリ給ヒヌ、武藏國荏原郡品川ノ東海寺ノ中少林院ノ山ニ葬リヌ、大人ノ弟子ナル某ガシルシタル、マ、ニトリテシルセリ、五勝問卷六玉、禪卷九參考

東海寺少林院碑銘

縣居于志、名、眞淵、氏者賀茂縣主、遠津祖者、山城國愛宕郡賀茂大神乃美也、都古、賀茂成助縣主也、成助乃齋片岡乃祝奈里之、師重乃女、内爾仕奉而、筑前局登云之爾、遠江國敷智郡濱松郷岡部乎賜利之乎、彼岡部爾齋比末都禮留、新宮乃神戶登永之永新宮乎、伊都岐奉、留倍伎與之、文永乃十末里一年、彼命婦乃弟師朝爾、美許登能里有之與理、則其新宮乃祝登成而代々乎經而、政定登云之波、引馬乃原乃御軍爾從奉、伊

左袁志伎業有良、御佩乃太刀乎賜利奴、于志者、其政定與利、
五繼乃孫定信登云留我、眞子爾豆曾於波之計流、元祿乃十
年登云爾、岡部爾豆阿禮出給比豆、享保乃十末里八年、京爾
上利豆、荷田宿禰東磨翁乃教乎受給比、寬保乃三年、此江戶
乃大城能下爾參來給比之乎、延享、乃三年、田安乃殿爾米左解
良禮良、古乃道能博士登之豆、殊爾免泥左勢給閉里伎、于志齡
老良、寶曆乃十年仕乎志叙伎豆、明和乃六年、病給比豆、十月
晦日乃日爾奈母、七十末利三乃齡爾豆、身罷給氣、豫能多
末比置都留麻々爾、江戶乃南荏原郡品川乃東海寺奈留少
林院乃、山上爾葬奴、抑皇國乃古學乃道、彌開爾開氣之波、荷
田翁、難波乃契冲阿閑梨我、以當豆伎毛阿禮籽、歌乃調乎古
爾引返多流波、此于志乎許曾、始登波尊倍計禮、著給留書、種

々世爾行波禮良、人皆志例々、茲爾言波儒、千蔭若可里之
與利、教受都流美多麻廼布由爾、報奉良牟登豆、人々登共爾
謀豆、石夫美建留爾奈母有計留、伊蘇能可微、布留伎良夫理
袁、志流辨世之岐美、布里之與乎、志努婆牟比等波、志努婆謝
羅免也、時者享和元年三月、橘千蔭文作豆自書利、

賀茂眞淵年譜

元祿十

丑丁

伊場村ニ生ル、呼名ハ參四、實名政信、又政藤トナノル、
幼ニシテ姉登政盛ノ養子トナル、

一歳

同十一

寅戌

二歳

同十二

卯己

三歳

同十三

辰庚

四歳

同十四

巳辛

五歳

同十五

午壬

六歳

同十六

未癸

七歳

寶永元

申甲

八歳

同二

酉乙

九歳

同三

戌丙

十歳

同四

亥丁

十一歳

同四

亥己

廿三歳

同三

戌戊

廿二歳

同二

酉丁

廿一歳

享保元

申丙

二十歳

同五

未乙

十九歳

同四

午甲

十八歳

同三

巳癸

十七歳

同二

辰壬

十六歳

正徳元

卯辛

十五歳

同七

寅庚

十四歳

同六

丑己

十三歳

同五

子戊

十二歳

享保五	子庚		廿四歲
同六	丑辛		廿五歲
同七	寅壬		廿六歲
同八	卯癸	名ヲ政成ト改ム、此頃養家ヲ退キ、僧トナラントス、父母許サス、後濱松驛ノ本陣、梅谷甚三郎ガ婢養子トナリ、一男子ヲ生ム、後ニ市左衛門ト云、	廿七歲
同九	辰甲		廿八歲
同十	巳乙		廿九歲
同十一	午丙		三十歲
同十二	未丁		卅一歲
同十三	申戊		卅二歲
同十四	酉己		卅三歲
同十五	戌庚		卅四歲
同十六	亥辛		卅五歲

終延舎菴

同十七	子壬	五月父定信歿ス、母モ此頃終ラレタリト見ユ、	卅六歲
同十八	丑癸	京ニ登リ、荷田ノ東曆ヲ師トス、濱松ノ友人諏訪社ノ大祝杉浦信濃守國頭ガス、メニヨリテナリ、國頭ノ妻マサキハ東曆ノ姪女ナリ、後政成ヲ眞淵ト改ム、敷智郡ヨリトレルナリトゾ、	卅七歲
同十九	寅甲		卅八歲
同二十	卯乙		卅九歲
元文元	辰丙	七月二日東曆ニハカニ身マカル、歌アリコレヲ吊ス、 ○眞淵從ヒ學ブ、四年ナリシガ遂ニ東曆ノ學ビノ筋ヲ傳ヘリ、 四月京ヲ立ノ故郷ニ歸ル、	四十歲
同二	巳丁		四十一歲
同三	午戊	江戸ニ來リ、村田春道ガ家ニ寓居ス、是ヨリ梅谷ノ稱ヲヤメ、モトノ岡部ニ復ス、○小野古道名簿ヲ送り弟子トナル、○後橋枝直ガ近隣ニ移住ス、濱松ノ梅谷ノ家ニ妻子ヲ殘シ置キヌ、此時離縁セシニハアラズ、	四十二歲
同四	未己		四十三歲
同五	申庚	苟且ニ故郷ニ歸ル、此時ノ紀行ヲ岡部日記ト云、	四十四歲
寛保元	酉辛		四十五歲

古學小傳

明和元	申甲	秋濱松町ニ移リ住ム、縣居ト號セリ歌アリ、 ○此コロ歌意考成、久老オク書アリ、	六十八歲
同二	酉乙	此頃國意考成、	七十歲
同三	戌丙		七十一歲
同四	亥丁		七十二歲
同五	子戊	祝詞考成自序アリ、	七十三歲
同六	丑己	二月語意考成、自跋アリ、宣長西村某ガ請ニヨリ序ヲカク、○山間文神代卷刻成、○十月晦日身マカリヌ、	

内山眞龍

内山眞龍ハ、稱ヲ彌五兵衛ト云、遠江國ノ人ナリ、眞淵ノ門ニ入り、古學ヲナシ、眞淵身マカラレシ後ハ、宣長ノ弟子分トナラレ、國學ニ名アリ、
出雲風土記解三卷 官所記 國號考

姓氏錄注十五卷 地名記

栗田土麿

栗田土麿ハ、号ヲ岡ノ屋ト云、遠江國城飼郡平尾村ノ廣幡八幡ノ祠官ナリ、從五位下ニ叙シ、壹岐守ニ任ス、眞淵ヲ師トシ、古學ヲマナビ、詠歌ニ名アリ、文化八年七月八日歿年七十五
神代卷葦芽抄三卷 岡廻屋家集

橘常樹

橘常樹ハ、土佐國人ナリ、妻モ子モナクテ、モノマナビノタメニ、江戸ニ來リ、眞淵ノ門ニ入りテ、古學ヲイソシミ、マタ和歌ヲモヨクセラレ、ヌ、此人物識レ、ド、シレリトモナク、酒飲メ

レド、ノメリトモナク、樂シメレド、タノシトモナク、親シメレド、シタシトモナク、患ヘレド、ウレフトモナク、貧シケレド、マヅシトモナク、カク、バカリアヤシケレバ、六無翁ト呼レキ、著書モ若干アリシヲ、盜人ノ爲ニ持チサラレヌレド、ナシトモセズトゾ、ソノ人トナリオモフベシ寶曆十二年十一月十九日、大ニ酒ヲノミ、醉臥シテ身マカリシト云、年五十九、古今集仰古解二十卷 家集若干卷

○ 加藤宇万伎

加藤宇万伎ハ、又美樹トモ、藤原氏ナリ、云、稱ヲ大助、家ノ名ヲ靜廼屋ト云ヘリ、幕府ノ大番騎士ナリ、高二百俵、淺草、眞淵ニ學ヒ、アマタノ著述アリケレド、多クハ家ニ秘メテ世ニイダサレズ、マタ和歌

モ堪能ノキコエアリ、毎ニ京攝ニ勤番セラレシナリ、門ニ入り教ヲ受ルモノ少カラズ、上田秋成ナド高足トス、寶永九年ニ、浪花ノ勤番ニオモムカレケルトキ、岐岨日記アリ、マタ東海道ヲノボラレシトキノ日記モアリ、明和五年ニ、復浪花ヘ在番ノヨリ、オホヤケノ黄金ソクバクヲ盜メルモノアリケレバ、ソノ縁坐ニテ、美樹モ公庭ニメサレシガ、イク程モナク、其盜人イデ、罪ユルサレキ、マタ安永六年ニ、京ヘオモムカレケルガ、此歳六月十日、フト病ニ臥シテ、二條ノ小屋ニテ身マカラレヌ、三條三賢寺ニ葬ル、法號了嚴院義洞勇徹居士、碑年□□□養子正樹、稱ヲ善藏ト云、父ノ志ヲツギ、歌ニ名アリ、甘樹ガ母門ニテ開エタル歌ヨミナリ、

古葉集解若干卷

木曾路ノ記

古事記解

土佐日記注一卷 雨夜タミ辞二卷 假字問答一卷

假字訓纂 靜舍雜著二卷 靜舍家集一卷

伊勢物語注解

○

山岡明阿彌

山岡俊明ハ、本姓ハ、大伴ナリト云、或云、俊明チマツアキラト、假字モテカキシヨリ、俊字ノ形、俊字ニ似タルチ以テ、俊ニアラタメシナルヘシ、俊明公ノ諡チサケシナリトイヘド、俊明公ハ、天明字ヲ子亮、号ヲ梅橋六年ニ薨シテ、俊明ノ知ル所ニハアラズ、猶考フベシ、散人ト呼ビ、稱ヲ左次右衛門ト云、高四、初メ林道春ノ門ニ入り、漢籍ヲ學ビ、中年志ヲ變シテ、皇國ノ紀傳ヲ研窮シ、眞淵ノ弟子トナリ、古學マタ和歌ヲヨマレケレド、師ト趣向ヲコトニシテ、一家ヲナセリ、後幕府ニ召サレテ、奉仕セシガ、家督ヲ子榮次郎ニ譲リシ後ハ、又金次郎、子トテ、薙髮シテ明阿彌

ト号シ、大和京攝等ニアソバレ、シヅカニ世ヲオクラレケリ、安永九年庚子十月十五日、京ニテ歿ス、年六十九、門人片山五郎兵衛誠之、其自筆ノ遺稿ヲ傳ヘテ藏セシガ、安政二年十月、震變ニ、火災ニカ、リテ、烏有トナリシト云、

片山氏ハ、淺草馬道ニ住ス、明阿彌遺稿ノ外、誠之ガ藏書五千餘卷アリト云、羽倉民子ガ、明阿彌ニ贈リシ書ヲモ藏セシガ、是モ癸卯ノ震變ニテ、蕩然タリトゾ、或云、明阿彌ハ年五十二ノツリ、死セシヨシチツゲ上京セシト、仕途ノ人、サルコトセララル、モノニヤ、ウダガハシ、サレド辞世ノウタニヨレハ、五十餘ニテ、身マカラレシヲ實トスベシ、類聚名物考三百四 擁書漫筆三百六 文ノシナリ七卷 逸著聞集二卷 源氏物語逸文考若干卷 筆ノマ、若干卷

新婦傳三卷

伊香保口号一卷

嵯峨釋迦像考一卷

示蒙抄一卷

武藏志料若干卷

名物考ノオクニ一卷コト

とつふきの、あそれさうなき、あと空めて、きえなんのち注、あそみとも見よ、

○

上田秋成

上田秋成ハ、号ヲ鶉居、家ノ号ヲ餘齋トイヘリ、稱ヲ東作ト呼ベリ、大坂ノ人、四歳ノヲリ、孤トナリテ上田氏ニ養ハレケルガ、業ノ汗下ナルヲ耻チ、家ノ産ヲヒサギテ、千金ヲ得タリシヲ、コトゴトク書籍ニカヘ、人ノ屋ヲカリ住マレケリ、藤原ノ宇万伎ガ、浪花ニノボリシヲリ、門人トナリ和文マダ歌ヲヨクセラル、學ナリテワカル、トキ、宇万伎歌ヲオクリテ、

「東路の、ふし注芝山、志はくみ、なれてもおもふ、こゝれするあとも、後ニハ歌マタクスシヲ業トス、年三十八ノトキ、火災ニカ、リ、家資ヲ失ヒ、居ヲ京師ニウツシケルガ、又大坂ニ歸ラレ長柄ノ水濱ニ住メリ、シバく居ヲウツ以テソコヲ鶉居トヨベリ、アル夜盜人壁ヲウガチテ入ケリ、秋成コレヲ見テ、コハ恰モ我意ヲ得タリ、風ヲ入ル、ニヨシトテ、其儘窓トナシ、盜窓ト号ケリ、又京ニウツラレケルガ、城市ノイソガハシキヲイトヒ南禪寺中ニ住ミケリ、此ヲリ号ヲ餘齋ト更ラル、又無腸居士トモ云リ、カヲ專ラニシテ、國書ヲヨマレシガ、最オボエ強ク、目ニ經レシコトハ忘レザリケリ、災後ハ、再ヒ書ヲタクハヘズ、室中茶具ノ外長物アルコトナシ、妄リニ人ト交ラズ、タマ蘆庵、蒿蹊ナド最タマアヘル友ナリケリ、

秋成弟子ナ、シフルヲ念トセズ、又富貴ニオモネラズ、平日
書机ノ側ニ藤篋ヲ置、凡著述ノモノ、悉クコレニ入ケリ、アル
時萬葉集訓詁、及筆記八十餘卷ヲ廢井中ニ埋メ、七ッヂト云、
年ヲ死期トナストテ、預メ葬所ヲ南禪寺中梅樹ノ下ニマウ
ケ、棺ヲ作り寺僧ニ托シ、平生著ス所ノ書及藏書ヲ寺中ニ納
メ、シヒ、長ヅカニ餘年ヲ送ラレケリ、太田南畝嘗テ秋成ヲト
夜ノ室ノ記ヲ作レリ、其詞ニ、噫翁無用於天壤間、天壤間亦無
用於翁、無用之用、知者希矣、白日昭々、長夜冥々、昭々之中、冥々
如此、冥々之中、亦有昭々者否、是吾獨奇翁、而人所以不奇翁也、
其弟子僧昇道等、文歌ヲ集メ、名ヅケテ藤篋冊子ト云、刻シテ
世ニツタフ、文化六年己巳九月□日歿ス、年七十八、
冠辭考續貂七卷 ヨシヤアシャ一巻 萬葉集見安補注 五巻
池永泰良筆記

靈語通一巻

古今集打聞校補 廿巻

荒木田久老

荒木田久老ハ、本氏ハ橋村、又守治号ヲ五十槻園ト云、稱ヲ主税
ト呼ベリ、幼名彌三郎、又典膳、主殿、中書、齋等ノ稱アリ、伊勢外宮ノ祠官、度會正身ノ第四
子ナリ、寶曆三年外祖父秀世ノ嗣子トナリ、權禰宜職ヲツギ、
主殿ト稱ス、故アリテ離縁シ、實家ニ歸リ中書ト改ム、同十三
年、從五位上ニ叙シ、明和四年、正五位下、同八年、從四位下トナ
リ、号ヲ齋ト改ム、安永二年、位ヲ還シ職ヲ辞シテ、荒木田求馬
久世ノ嗣トナリ、名ヲ久老トアラタム、内宮權禰宜ニ補ス、同
三年、五十槻ト改ム、齋、五十槻、ト音通ヘリ、伊勢ノ内宮ヲ、槻同八年、從
五位上トナリ、同九年、正五位下ニ叙シ、寛政三年、從四位下ト

ナル、性豪邁超越、縣門ノ巨擘トス、律令祝詞等ニ精シク、最モ
萬葉集ニ明ラカナリ、鈴屋ト異曲同工ノ聞エアリトゾ、後家
傳ヲ主張シ、別ニ一家ヲナス、文化元年甲子八月十四日、身マ
カリヌ、年五十九、四男一女アリ、長子久守家學ヲツギ、世ニ名
アリ

續日本後紀歌解 一卷

万葉考槻落葉 八卷 日本紀歌解 三卷

竹取翁歌解 一卷 校正肥前風土記 一卷 同豊後風土記 一卷

同出雲風土記 一卷 校本和名類聚抄 十二卷 祝詞考 校訂三氏

祝詞考追考 一卷 古言清濁弁論 一卷 難波舊地考 一卷

酒之古名區志之考 一卷 古事記歌解 二卷 播磨下向日記 一卷

五十槻園集 若干卷

○

香取魚彦

伊能魚彦、江戸ニアルト、初名ハ景豊後、景良ト改、青藍ト号シ、茂
左衛門ト稱ス、下總國香取郡佐原村ノ人ナリ、其先ハ豊後國
ヨリ出テ、尾形三郎維義ガ四世ノ孫神兵衛大輔景能、下總國
香取郡大須賀莊ヲ知テ、伊能村ニ居リ、ヨテ伊能ヲ氏トス、天
正中、朝辰ト云ル人アリ、稱チ因幡ト云、道号心月、氣慨アリケレバ、國分氏ノ
遺孤ヲ庇テ、上総ノ正木正勝トシバ、一戰ヒ、終ニ敗テ矢作
城陥リ、朝辰之ニ死ス、其子守胤、佐原村ニ移リ住シヨリ、六世
ノ孫ヲ景榮トイヒ、土子氏ヲ娶リテ魚彦ヲ産メリ、時ニ享保
八年三月二日ナリ、魚彦幼キヨリ穎悟、六歳ノトキ、父身マカ
リケルガ、哀毀成人ノ如シ、年タケテ後ハ和歌ヲ好マレ、賀茂
眞淵ノ門ニ入り、國學ヲイソシマレ、假字用格ノ混乱レルヲ

歎キ、古事記、日本紀、万葉集ヨリ和名抄等ニ至ルマテ、古キ假字ヲタヅネアツメテ古言梯ヲ著ハセリ、後進ノ士コレニヨラザルナシ、明和二年、家ヲ子景序ニ譲リ江戸、ニ出テ濱町山伏井戸ニ住ス、其庵ヲ茅生ノイホト云フ、眞淵ノ家ト近ケレバ朝夕ニ親炙シテ、學ビノ道ニ心ヲ入レケリ、眞淵歿シテ後翁ニ從ヒ學フモノ二百餘人、マタソノ名高ク諸侯ヘモ聞エケレバ、弟子ノ禮ヲトルモノ多ク、中ニモ中津ノ殿ハ、ワケテアツクモテナサレ、輪王寺法親王ノオン許ヘモ、親シク參リテ歌ヲ解カレケリ、天明元年十月、眞淵ノ十三回ヲ營ミ、友人ヲアツメ、其遺文歌ヲ集輯シテ、縣居文歌ト題シ、序文ヲカケリ、歌口ハ古躰ヲ好マレ、万葉集ヲ歸トス、魚彦畫ヲ建孟喬ニ學ヒ、常ニ好テ梅花及鯉魚騰泉ノ狀ヲ寫シ、世ニ賞翫セラレ、

天明二年三月廿三日、濱町ノ僑居ニテ身マカリヌ、年六十、遺骸ハ下総香取郡牧野村觀福寺先塋ノ側ニ葬ル、法号光雲院
楫浦魚彦居士ト云、門人千賀眞恆等石ヲ淺茅カ原ニ建テシト云、

古言梯一卷 萬葉集千歌一卷 雨夜ノ燈火
筆ノサキ言 百人一首畧傳 楯之婦手五卷

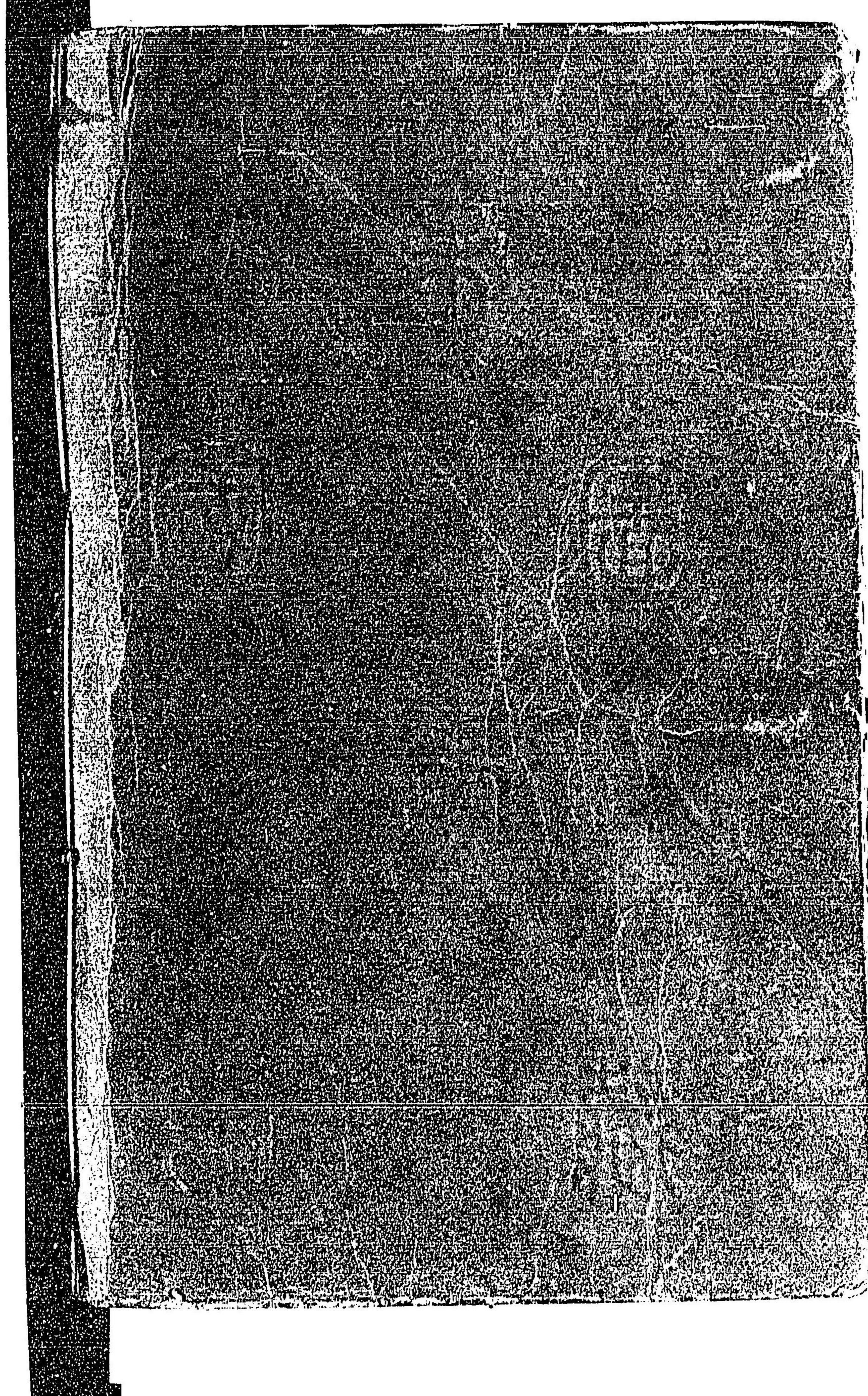
古言梯ハ、春海、濱臣、常典等ノ人々増補モアレバ更ニイハズ、千歌ハ、眞淵ノ新採百首ノサキガケナルベク、畧傳ハ、雅嘉ノ一夕話ノ底本トナリモヤシケ、ン、家元ニモナリハヒヌレバ知ルニヨシナシ、楯ノ婦手ハ、久シク世ニ埋レタリシヲ、嘉永中加納諸平ガ序ヲ加ヘテ上梓セリ、

茅生壟碑
鼠聲蜂音乃壟波也、茅生波吾大人茅生乃翁賀廬乃号爾志且、
翁波、楫取中臣魚彦奈利、翁下總國楫取縣從、東乃遠乃朝廷、
大江門乃大城乃下爾出且、加茂縣主眞淵大人爾屬伎、吾皇

御國能古書乎讀考反古調乎序歌反里介留今也降禮留代
 爾志且高伎代廼文藻乎悟佐万久故作禮留古言乃梯登云
 書序其高代乃高爾昇布手便登毛成奴又廣久種々能書乎
 論呂比勞成世留業乎掛卷毋恐伎二荒乃官乃法親王聞食
 皇靈乃布由乎蒙且從其勳功乎不稱波不有介里如何奈留
 也年名乎天明登云留二年三月二十三日齡六十登云爾黃
 泉爾去奴茲爾翁耳從反留朋友等議且此武藏國豐島奈留
 縣爾淺茅我原登名乎負世志地平由緣登志且書捨爾多留
 文等歌等乎埋美即且是乎茅生乃壘登日在何怜此石登與
 爾千秋五百秋毛淺茅生乃茅生能翁賀名乃不朽且往昔好
 米留人乃偲爾奈毛爲牟登智訶眞恆識奴源伊呂古書

古學小傳卷一終

10
3
74



10

74

004405-001-1

10-74

古学小伝

清宫 秀堅 / 著

上

M19

ACE-0900

